

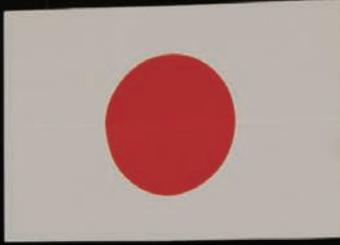


日本武道館へ御着された天皇皇后両陛下

日本武道館
開館五十周年

記念式典・日本武道祭に 天皇皇后両陛下が御来臨

公益財団法人日本武道館開館五十周年
記念式典・日本武道祭



国歌斉唱

日本武道祭を盛大に挙行政

公益財団法人日本武道館開館五十周年
記念式典・日本武道祭は10月5日、天皇
皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、日本武道館
大道場で挙行された。

記念式典は開式の辞、国歌斉唱の後、
松永光会長が主催者を代表して挨拶。来
賓祝辞には高村正彦武道議員連盟会長が
立った。日本武道祭に移り、演武は小笠
原流弓馬術の幕目の儀で幕を開けた。現
代武道9道と柳生新陰流兵法剣術が真髓
を披露し、ロシア連邦民族・伝統武道団
が招待演武を行った。演武納めに森重流
砲術の爆音が轟いて、その幕を閉じた。
会場には招待客約5500名が参集。
現代武道、古武道の技と心を真剣な眼差
しで見つめていた。



日本武道館開館五十周年 記念式典・



小笠原流弓馬術

墓目の儀

墓目ひきめとは矢の先に付けた墓目鏑ひきめかぶらのことで、木を挽ひいて削るので引目といい、その形が墓蛙ひきがえるに似たところから墓目ともいわれている。矢が飛ぶときに風を切り、音を発し、それによって魔障を退散させる。墓目の儀は弓馬術礼法小笠原教場の歩射ほしやとして最も重要な儀式となっている。

【日本武道祭演武順】

演武始め 小笠原流弓馬術

① 柔道

② 剣道

③ 相撲

④ 空手道

⑤ 弓道

⑥ 合気道

⑦ 柳生新陰流兵法剣術

⑧ なぎなた

⑨ 少林寺拳法

⑩ 銃剣道

招待演武 ロシア連邦民族・伝

統武道団

演武納め 森重流砲術

柔道

五の形

五の形^{いつつ かた}は嘉納治五郎が明治二十年に講道館柔道の形として制定したもので、柔道の攻撃防御の理合を高尚に表現し、五本まで作られた。五の形と称しているが、個々の技に名称はない。この形は天地自然の姿であり、その理法をかたどって柔道的に表現した芸術味のあふれた形である。



剣道

日本剣道形

明治・大正・昭和の三代にわたる剣豪高野佐三郎、内藤高治、門奈正、根岸信五郎、辻真平を中心に、剣道各流派の粋を集め、最も基本的な技を選び、太刀七本、小太刀三本に組み立てて、技の理合を極め、剣道の真髄を追求し、剣道修練の基礎としたものである。



相撲

基本動作と技・決まり手

基本動作では、互いに正々堂々と戦う意味を示す塵浄水、相撲の動作で最も基本となる四股、股関節および上半身の柔軟性を高める股割りを披露。決まり手は、試合で最も多く見られる寄り切りのほか、押し出し、吊り出し、上手投げを披露し、最後は居反りで豪快に締めくくる。



空手道

形・クルルンファとその分解

クルルンファは剛柔流の代表的な形である。動きの速い部分が多く、猫の動きのように素早く、そして、粘りのある動きに変わる緩急の動作が特徴である。分解は演武した形が実際にどのような意味を持つのか、選手同士が行う攻防の実演である。





弓道

一つの坐射礼

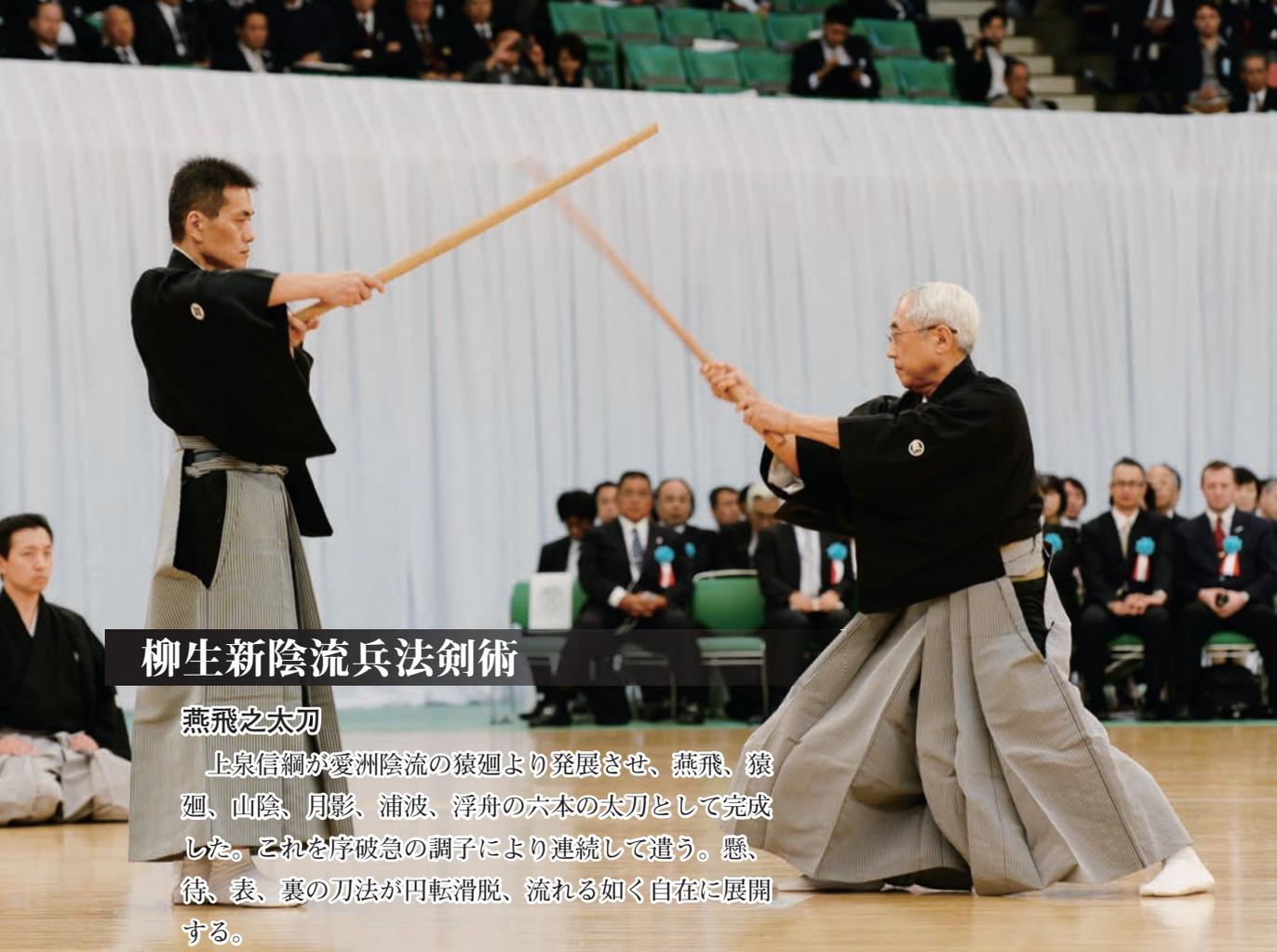
射礼は古来、祭祀、式典などにおいて、その時代の式服を着用し、起居進退に従って射を行うものである。一つの坐射礼は射礼の一つの形式で、三人の射手で行う。慶祝などの時に行う射礼であり、多人数で行う射礼の形を示すものとして重視されている。

合気道

自由技演武

合気道は相手といたずらに力で争うことなく、入身と転換の体捌きから生まれる技によって、互いに切磋琢磨し合って稽古を重ね、心身の錬成を図ることを目的としている。自由技演武では、様々な攻撃に対して、基本技、応用技を用いて応じる。





柳生新陰流兵法剣術

燕飛之太刀

上泉信綱が愛洲陰流の猿廻りより発展させ、燕飛、猿廻り、山陰、月影、浦波、浮舟の六本の太刀として完成した。これを序破急の調子により連続して遣う。懸待、表、裏の刀法が円転滑脱、流れる如く自在に展開する。



なぎなた

全日本なぎなたの形

なぎなたの技の中でも代表的な理合にかなった操法を組み合わせたものである。しかし、重要なことはその精神である。形を通じて心を磨き、技を練り、理にかなった高度な形を行うことにあらゆる努力、精進を続け、自己の完成を目指すことを目的とする。

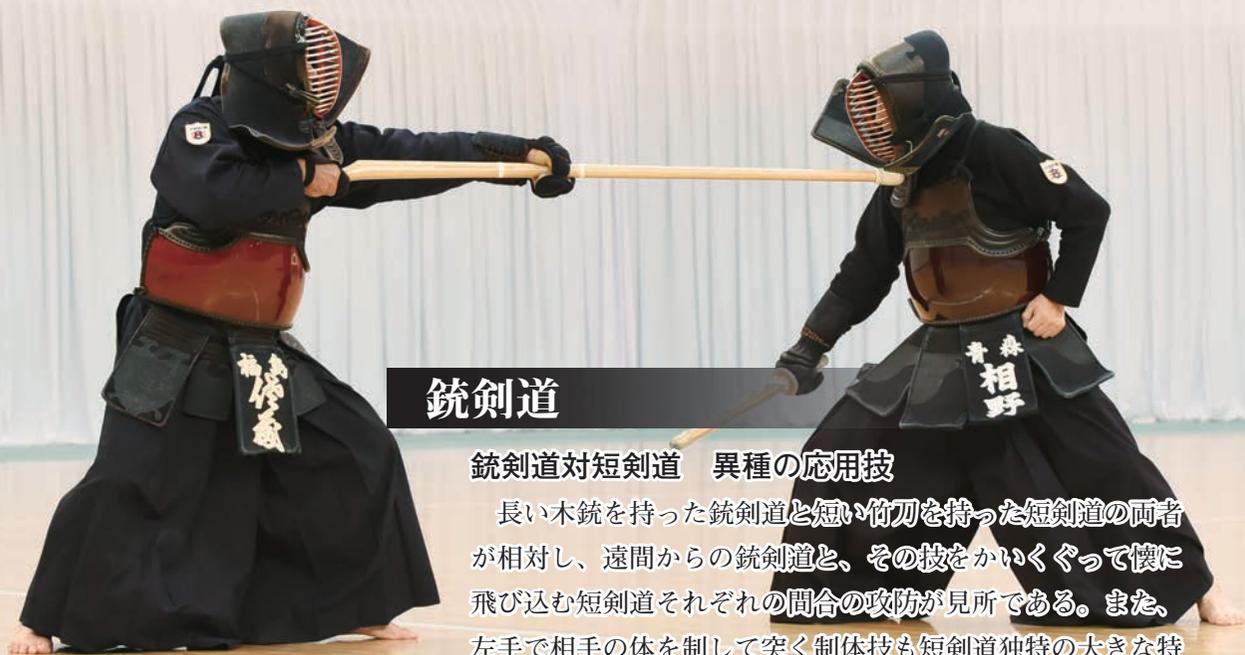


少林寺拳法

状況演武

じょうきようえんぶ

状況演武とは、攻撃する三人を相手にした状況を想定し、
ごうほう 剛法・じゅうほう 柔法の技術を披露するものである。剛法では突き、蹴り
 と受けの攻防における極めと沓えが、柔法では鋭く豪快な投げ技が見所である。また、三人の攻撃に対処する護身の技法も行われる。



銃剣道

銃剣道対短剣道 異種の応用技

長い木銃を持った銃剣道と短い竹刃を持った短剣道の両者が相対し、遠間からの銃剣道と、その技をかいくぐって懐に飛び込む短剣道それぞれの間合の攻防が見所である。また、左手で相手の体を制して突く制体技も短剣道独特の大きな特徴である。

招待演武 ロシア連邦民族・伝統武道団

サンボ、マス・レスリング、コレッシュ、コサック武術

本年は日露武道交流年にあたり、交流事業の一環として、ロシア連邦民族・伝統武道団がサンボ、マス・レスリング、コレッシュ、コサック武術を披露した。静寂の中で行われる日本武道と違い、会場にはロシアの民族音楽が流れ、それに合わせながらの演武で観客を魅了した。

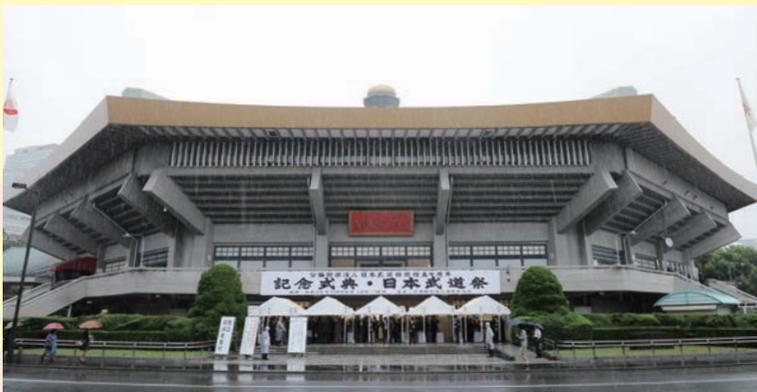




森重流砲術

備打

森重流砲術は江戸時代に^{もりしげゆき えすべよし}森重鞠負都由が諸国の砲術の奥義を極め、興した流派である。披露された^{そなえうち}備打は、横隊に並んだ射手が指揮者の^{ひざだい}下知により、^{きょじゅう}膝台、腰放し、立ち放しのそれぞれ異なった据銃姿勢を以て三射するものである。



開館 50 年を迎えた
日本武道館

(公財)日本武道館開館五十周年記念式典・祝賀会



主催者を代表して松永光会長が挨拶

公益財団法人日本武道館開館五十周年記念式典・祝賀会は10月5日、安倍晋三内閣総理大臣、伊吹文明衆議院議長、山崎正昭参議院議長、丹羽秀樹文部科学副大臣、高村正彦武道議員連盟会長を来賓に、政財官武道関係者約530名が出席して、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで行われた。

開式の辞、国歌斉唱に続いて、松永光会長が主催者挨拶。その後、来賓が祝辞を述べた。塩川正二郎前会長（現顧問）を始め、6名の功労者表彰が行われ、臼井日出男理事長の発声で乾杯。出席した招待客全員で日本武道館の五十周年を祝った（詳細は288ページ）。



安倍首相を来賓に記念祝賀会

◎松永光日本武道館会長

「昼に五十周年記念式典・日本武道祭を開催し、たくさんの方に来ていただいて、成功裏におさめることができました。心から感謝をしております。私ども職員、力を合わせて、先輩に負けないように心を新たにして日本武道館の、日本の伝統文化である武道の一層の普及発展を目指して頑張っております。安倍総理のもとで武道は中学校で必修になりました。ご列席の皆様におかれましては、今後ともご協力をお願い申し上げます」



◎高村正彦武道議員連盟会長

「日本武道館は大変長い間、中学校武道を必修にしようと取り組んできたわけですが、なかなか実現しませんでした。しかし、安倍総理の強い指導力によって、教育基本法が改正されて、その流れの中で武道必修が実現しました。現在、日本武道館はその授業内容をより充実させようということで必死に取り組んでおられる、大変ありがたいことです。日本武道館そして、日本武道のさらなる発展を心からお祈り申し上げます」

◎安倍晋三内閣総理大臣

「武道が今日我が国のみならず広く世界の
人々に愛され、親しまれていることは誠に喜
ばしいことで、世界に誇る武道の殿堂、日本
武道館なくしては今日の武道の普及、発展は
ありませんでした。2020年には東京オリ
ンピック・パラリンピックが開催され、日本武
道館が熱い戦いの場となります。大会を契機
に国内外の多くの方々が武道の真髄に触れ、
平和で豊かな社会づくりへと向かうことを期
待しております」



塩川正十郎前会長（顧問）ほか5名に松永会長から特別功労章が贈られた

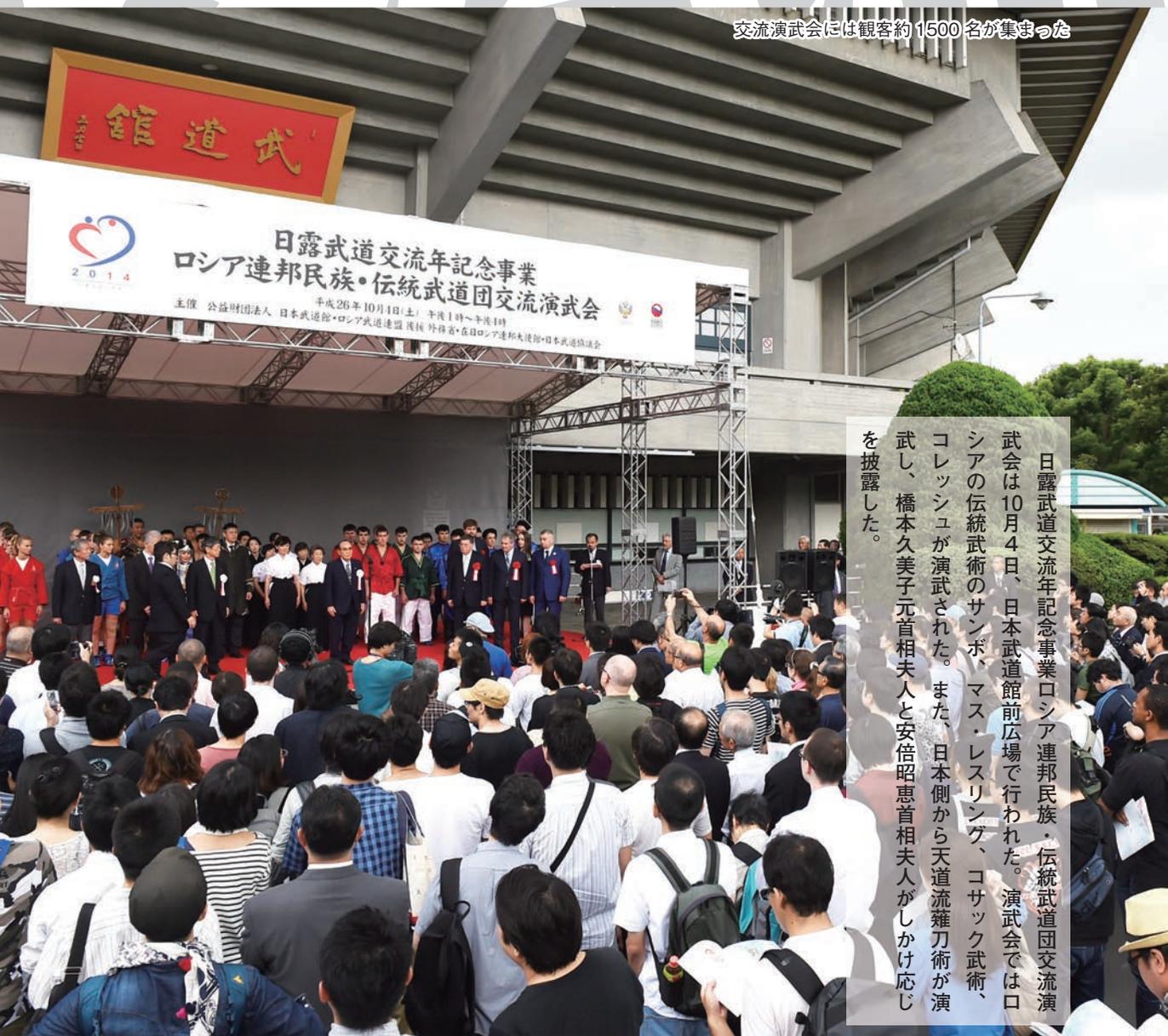
(公財)日本武道館開館五十周年記念式典・祝賀会



白井日出男理事長の音頭で乾杯



交流演武会には観客約1500名が集まった



日露武道交流年記念事業ロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会は10月4日、日本武道館前広場で行われた。演武会ではロシアの伝統武術のサンボ、マス・レスリング、コサック武術、コレツシュが演武された。また、日本側から天道流薙刀術が演武し、橋本久美子元首相夫人と安倍昭恵首相夫人がしかけ応じを披露した。

日露武道交流年記念事業

ロシア連邦民族・伝統武道団 交流演武会を開催



サンボ Самбо

ロシアのサンボは武器を使わない護身術として、1920～30年代に誕生した。良いものは全て取り入れ、発展と革新を続けるという精神に立ち、様々な民族文化の武術手法のみならず、精神的規範も取り入れてきた。今日ではロシアで人気のあるスポーツの一つとなっており、ロシア国内では30万人の愛好家が親しんでいる。

マス・レスリング Мас-рестлинг

マス・レスリングはロシア北東部に位置するサハ共和国の伝統スポーツで、マスとは木の棒を意味し、レスリングは英語から来ている。相手に触れることのない唯一の格闘技で、棒を用いて戦う。選手は板に足を踏ん張って座り、木の棒を引っ張る。相手を自分の側に引き寄せるか、木の棒を奪うことができた者の勝利となる。



流典



コサック武術 Казачье боевое

戦う民族であるコサックは、数世紀に渉^{わた}ってロシアを守り、ロシアに栄光をもたらしながら自らの武術を完成させてきた。コサック武術の最も基礎となるのはコサック刀の修得であり、古来の武器の使い方を習得することで、祖先から受け継がれた戦闘の典型的な身動きが無意識に身につくのである。

コレッシュ Корэш

コレッシュはロシア連邦西部に位置するタタルスタン共和国を構成するタタル民族の様々な風習や儀式、伝統を伝え、タタル文化を構成するものである。祝祭行事の目玉として受け継がれ、強さ、敏捷性、耐久性を競う。特徴として、ルール上、対戦相手の体を一度床から離さなくてはならず、離すことなく行われた技は得点とはならない。





ヒョードル・エメリヤネンコ
ロシア連邦スポーツ省特別補佐官



日本でも人気を博した
元総合格闘家・ヒョードルが来場

橋本元首相夫人と安倍首相夫人が しかけ応じを披露

天道流薙刀術

天道流は今から 450 年前にさいとうほうがん ぎ ぼうかつひで斎藤判官伝鬼房勝秀によって常陸国（茨城県）で創始された武術である。斎藤は諸国修行を終えて郷里に帰り、かすみしんとりゅう さくらいおおすみのかみ霞神道流の櫻井大隅守との決闘の際に示した矢切の術をいちもんじ みだれ一文字の乱といい、流儀の基本となっている。現在は薙刀、二刀、杖、剣、鎖鎌、小太刀などの技が伝承されている。

体験交流会



好評発売中

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。
本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的心身論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一言。



神戸学院大学教授 前林清和 著
(四六判・上製・370頁)

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節 武士の覚悟／第二節 禅と悟り／第三節 能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節 不動心／第二節 武道の悟り／第三節 駆け引き／第四節 目付／第五節 瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節 気とは何か／第二節 気の歴史と武士／第三節 勝負と気／第四節 天道と心気／第五節 静と気／第六節 達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節 武道の型／第二節 柳生の技／第三節 武蔵の技／第四節 竹刀打込剣術／第五節 心法重視の型剣術／第六節 柔よく剛を制す／第七節 矩／第八節 鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節 現代剣道と人間形成／第三節 佐川派大東流の技と修行／第三節 身を処する／第四節 死と生

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

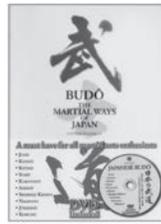
日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)
(B5判・上製・DVD付・336頁)



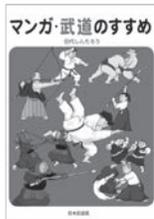
武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著
(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家
小笠原清忠 著
(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者
吉野 喜信 著
(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター
辻 秀一 著
(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授
大保木輝雄 著
(四六判・上製・220頁)

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

公益財団法人日本武道館開館五十周年
記念式典・日本武道祭



公益財団法人日本武道館開館五十周年

記念式典・日本武道祭



天皇盃第65回全日本男子弓道選手権大会
平澤敏弘(長野)が初優勝

日露武道交流年記念事業

ロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会



剣道の演武を御覧になる両陛下



天皇皇后両陛下を御迎えして

日本武道館開館五十周年

記念式典・日本武道祭を開催

公益財団法人日本武道館開館五十周年記念式典・日本武道祭は10月5日午後2時より、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、日本武道館大道場において盛大に挙行された。

当日は台風18号の接近に伴って、大荒れの天候に見舞われたが、会場には武道関係者ら約5500名が集集。報道陣も23社が集まり、高い関心が窺われた。

大太鼓の合図が鳴り響き、天皇皇后両陛下がご来臨。両陛下が御着席されると、白井日出男日本武道館理



記念式典

事長が開式を宣言した。

国歌斉唱に続き、主催者を代表して、松永光日本武道館会長が挨拶に立った。

「日本武道館は武道を普及奨励することを目的に建設されたもので、以来、武道の中心施設として、振興発展のために尽くしてまいりました。武道は武士道の伝統に由来する我が国の伝統武技であり、道徳心を高め、礼節を重んじる人間形成の道であります。海外においても、広く愛好されていることは誠に喜ばしい限りであります。今後、より一層の武道振興を図って、日本の発展に寄与し、広く世界の平和と福祉に貢献してまいります」

続いて、高村正彦武道議員連盟会長が来賓祝辞を述べた。

「日本武道館の歴史は今から53年前に武道を愛好する衆参両院525名の議員が結束し、武道の大殿堂を建設しようとして衆議院本会議において、超党派による全会一致で建設の決議がなされたことに始まります。日本武道館は青少年の健全育成を目的に、国内外に幅広く武道振興普及事業、教育文化事業を展開されております。」



会場には武道関係者ら約5500名が集まった

終わる度に観客から大きな拍手が湧き起こった。第一部はここで終了。天皇皇后両陛下はここで御帰りになされた。

第二部は弓道から始まった。合気道、柳生新陰流兵法剣術、なぎなた、少林寺拳法、銃剣道と続き、日本武道の精華を披露した。

昨年4月の日露首脳会談で、安倍晋三内閣総理大臣とウラジミール・プーチン大統領の間で、本年を日露武道交流年とすることで合意がなされた。それを受け、日本武道祭にはロシア連邦民族・伝統武道団が招待され、サンボ、マス・レスリング、ハプサガイ（地面に体の一部が着いたら負けとなる競技）、コレッシュユ、コサック武術が演武された。これらは静寂の中で行われる日本の武道の演武とは違い、ロシア民族音楽の大音響に合わせて行われた。

演武納めに森重流砲術が登場した。火縄銃から轟く銃声に観客がざわめく中、次々に火蓋が切られていく。火薬の匂いと硝煙が立ちこめる中、三藤理事・事務局長が閉会を宣言し、日本武道祭は盛會裡に幕を閉じた。



柔道



小笠原流弓馬術



剣道（日本剣道形）



剣道（木刀による剣道基本技稽古法）



杖道



居合道

日本武道館には古武道を含めた武道をもっと大切にしていっていただきたい。どちらかというと言能関係が多いように思いますね。今後も武道を奨励する財団であることを期待しております」

●柔道Ⅱ佐藤伸一郎七段（東京）

「御前演武ということは気にしないようにしましたが、今思うと、体が浮いているような感じがしました。緊張していたのですね。」

日本武道館の地方の指導者研修会で何度か講師をさせていただきましたが、そういった機会に地方の先生方と交流をさせていただいて、大変

●小笠原流弓馬術Ⅱ

小笠原清忠三十一世宗家（神奈川）

「両陛下の前で演武できること、また、そこに選ばれたことは非常に光栄なことだと思っています。演武は普段通りに粛々と執行できました。」

第一回の古武道大会で儀式をさせていただいたことが一番の思い出です。父が射手で私は介添えでした。翌年は射手でしたので、私もすぐにでも息子に譲りたいですね。今日で最後を飾ったつもりですので、いつでも引退できます。」

御前演武



相撲



空手道

勉強になっております」

●剣道Ⅱ梯正治範士八段（東京）

「今回は制限時間があつたので、予行演習を何度も行いました。その甲斐あつて時間内に収まったので、ほつとしました。御前では礼法も普段とは少し違い、省かないようにと考えていましたので、お顔を拝することではできませんでした。とは言いましても、御前演武は一生でもう二度とないでしょうから、大変光栄なことでした」

●相撲Ⅱ舛田守七段（東京）

「緊張しました。でも相撲をやつていてよかったです。学生はだいぶ緊張していたみたいです」

学生たちは日本武道代表団派遣事業で毎年お世話になっていますが、帰つてくると、人間的に一回り成長して、度胸もつけてきます。今後もよろしく願います」

●相撲Ⅱ金子尚平三段（東京）

「ものすごく緊張しました。実際に記念式典で天皇皇后両陛下がお見えになったときに、鳥肌が立ちましたね。2年前にインドに行かせてもらった経験が教育実習で活きました。

地理でしたが、宗教のことを話した



弓道



なぎなた



合気道 (右上・自由技、左上・基本技 [投げ技]、下・基本技 [固め技])



柳生新陰流兵法剣術 (左・三学円之太刀、右・燕飛之太刀)

り、撮った写真を生徒に見せたりしました」

●空手道 II 木村陽子公認五段(大阪)
 「天皇皇后両陛下の前で空手道をしつかり見ていただくという役割を無事に果たせて、ほっとしています。日本武道館はずっと憧れていてようやく出場できた全日本選手権の舞台なので、ここにくると神聖な気持ちになります。だから、何年経っても変わらない原点として残ってほしいと思います」

●弓道 II 久保田清範士八段(茨城)
 「一つの坐射礼は三人の動きが見せ場になるので、それがうまく伝えられたと思います。平成15年あたりに鏡開き式で初めて演武をさせていただきましたが、弓道場と違って、拍手や観客の声が立体的に聞こえてきたのには驚きましたね」

●合気道 II
 植芝充央本部道場道場長代行(東京)
 「いい緊張感の中、演武することができます。大変光栄に思っております。今日の演武は普段我々が稽古している基本を中心に演武いたしました。小学3年生のときに初めて全日本合気道演武大会に出場したのが、日



少林寺拳法
(上・状況演武、中・自由組演武、下・女子団体演武)

本武道館の思い出で一番大きいですね。当時は先代の吉祥丸道主が存命で、とても喜んでいたことを覚えております」

●柳生新陰流兵法剣術Ⅱ

柳生耕一 嚴信宗家(愛知)

「日本武道館では第一回全日本古武道演武大会に父が出場しまして、以来、長い間演武させていただきました。ります。今日改めて、日本の伝統文化の精神を次世代に正しく伝えていくことが、自分の大切な使命であると肝に銘じるとともに、50周年の日本武道祭で演武させていただいたことを大変光栄に思っております」

●なぎなたⅡ 畠瀬美佐子範士(岡山)

「一本一本が真剣ですから、同じ形ができないので、十分お稽古したものができるかが一番心配でした。」

日本武道館には伝統文化である武道を今後も大事にさせていただいて、子供たちはもちろん、指導者も育てていただきたいと思います」

●少林寺拳法Ⅱ

荒井章士 准範士六段(香川)

「晴れの舞台ですので、全員がしっかりと練習して臨みました。今、率直にぼつとしております。今日は他

武道の方も多く来られているので空気が違って、少し緊張しました。

引退試合の全日本学生大会が日本武道館でありまして、3位に終わって悔しかったことを覚えています。

ただ、終わった後の爽快な気持ちは今でも思い出されます」

●銃剣道Ⅱ佐藤亨範士八段（福島）

「皆さんに見てもらえてありがたいという気持ちですね。稽古始めの時はちよつと違う独特の雰囲気でしたね。銃剣道の演武者はそれぞれの実力なりにやっています」

日本武道館は全日本選手権大会の会場で、平成7年に出場して決勝で負けて、悔しい思いをしたことがあります。今は普及事業で大変お世話



銃剣道（上・銃剣道基本技・引き立て稽古、下・銃剣道の応用技）

になっていまして、外国人との交流や青少年の育成、中学校武道のことなどをより一層深めていっていただきたいと思っております」

●森重流砲術Ⅱ

小野尾正治名誉師範（千葉）

「火薬で身も心も清めましたから、これで皆さん、すっきりした形でお帰りになっていただければと思います。皆さん、音がすごいとおっしゃいますけど、この武器が今から200〜300年前の日本を守っていたわけですよ。今日のような武道の演武を天皇皇后両陛下に御覧いただいて、こない日はありません。今日は本当に武道館さん、ありがとうございます！」

招待演武 ロシア連邦民族・伝統武道団



コレッシュ



サンボ



コサク武術



ハプサガイ



森重流砲術 (上・居放、下・備打)

●三藤芳生

日本武道館理事・事務局長

この日、天皇后陛下下の御説明役を務めた大会実行委員長の三藤理事・事務局長に話を聞いた。

「両陛下からはそれぞれの演武について御下問を受けましたので、歴史や内容などを具体的に説明申し上げました。特に空手道の演武にご関心を持たれていた様子でした。また、日本の伝統文化である武道が世界に広く普及されていることを喜んでおられましたね。両陛下には武道に深い関心をお持ちいただいていることを間近で強く感じました」

〔演武者一覧〕

▽小笠原流弓馬術

- 小笠原清忠 三十一世 (神奈川県)
- 小笠原清基 三十一世嫡男 (神奈川県)
- 九里 孝義 重藤弓免許 (三重)
- 砂口 勝紀 重藤弓免許 (大阪)
- 川村 明義 重藤弓格免許 (京都)
- 鎌形 佐知夫 重藤弓格免許 (千葉)
- 吉田 昌伸 相位弓格免許 (神奈川県)

▽柔道

- 佐藤伸一郎 七段 (東京)
- 増地 克之 六段 (茨城)

▽剣道

- 梯 正治 範士八段 (東京)
- 濱崎 満 範士八段 (東京)
- 河口 俊彦 居合道範士八段 (山口)
- 小倉 昇 居合道範士八段 (栃木)
- 荒井 洋 杖道範士八段 (神奈川県)
- 大里 耕平 杖道範士八段 (神奈川県)
- 軽米 満世 教士七段 (千葉)
- 秋葉 知恵子 教士七段 (千葉)

▽相撲

- 舛田 守 七段 (東京)
- 金子 尚平 三段 (東京)
- 黒川 宏次朗 三段 (東京)
- 鳩岡 良祐 二段 (東京)
- 坪山 晃大 二段 (東京)

▽空手道

- 木村 陽子 公認五段 (大阪)
- 森岡 実久 公認参段 (兵庫)
- 柏岡 鈴香 公認参段 (大阪)

▽弓道

- 久保田 清 範士八段 (茨城)
- 村川 平治 教士八段 (東京)
- 土佐 正明 教士八段 (千葉)

▽合気道

- 植芝 充央 本部道場道場長代行 (東京)
- 栗林 孝典 七段位 (東京)
- 金澤 威 七段位 (千葉)
- 鈴木 俊雄 五段位 (東京)

▽小谷 佑一 五段位 (東京)

▽内田 直人 四段位 (千葉)

▽日野 皓正 四段位 (東京)

▽柳生新陰流兵法剣術

- 柳生耕一 厳信 宗家 (愛知)
- 葭谷 努 (神奈川県)
- 鈴木 泰充 (愛知)
- 柴田 幸芳 (岐阜)

▽なぎなた

- 畠瀬美佐子 範士 (岡山)
- 中村ゆり子 範士 (福岡)

▽少林寺拳法

- 荒井 章士 准範士六段 (香川)
- 田中 由喜 大拳士五段 (香川)
- 谷 聡士 正拳士五段 (香川)
- 秋元 宏介 中拳士三段 (香川)
- 石井 明仁 大拳士五段 (東京)
- 石川 佑斗 正拳士四段 (東京)
- 佐原 圭 参段 (新潟)
- 伊勢 歩実 参段 (新潟)
- 岩井 久子 式段 (東京)
- 大浦 薫 式段 (神奈川県)
- 郡山しずか 一級 (埼玉)
- 高村 映光 三級 (東京)

▽銃剣道

- 佐藤 亨 範士八段 (福島)
- 相野 照昭 教士八段 (青森)
- 浦部 聖二 教士七段 (香川)
- 中野 克直 教士七段 (宮城)
- 中野渡 弥生 鍊士六段 (神奈川県)
- 遠藤 里紗 三段 (神奈川県)

▽森重流砲術

- 小野尾正治 名誉師範 (千葉)
- 村上藤次郎 師範 (東京)
- 青木 孝 師範 (神奈川県)
- 角替 進 免許 (静岡)
- 齋藤 一博 免許 (神奈川県)
- 片山 直巳 免許 (静岡)
- 石井 和己 免許 (千葉)

(公財)日本武道館開館五十周年記念式典・祝賀会



公益財団法人日本武道館開館五十周年記念式典・祝賀会

約 500 名が参集して 日本武道館五十周年を祝う

10月5日 ホテルグランドパレス

公益財団法人日本武道館開館50周年記念式典・祝賀会は10月5日、日本武道祭終了後、会場を東京・飯田橋のホテルグランドパレスに移し、安倍晋三内閣総理大臣、伊吹文明衆議院議長、山崎正昭参議院議長、丹羽秀樹文部科学副大臣、高村正彦武道議員連盟会長を来賓に、政官財武道関係者ら約500名が集まって、盛大に挙行された。

定刻の午後5時、三藤理事・事務局長が開式を告げ、国歌斉唱の後、松永会長が挨拶に立った。来賓祝辞では安倍首相、伊吹議長、山崎議長、丹羽副大臣、高村会長の順に登壇した(松永会長、安倍首相、高村会長の挨拶要旨は14〜15頁に掲載)。

次に、日本武道館の事業に長年にわたり功績を挙げた功労者の表彰が行われ、松永会長より賞状と記念品が渡された。表彰されたのは、塩川正十郎前会長(現顧問)、井上裕前理事長(故人)、岩間英太郎日本武道協議会武道功労表彰審議会前委員(故人)、鳥居泰彦同委員、福島林邨月刊「書写書道」編集顧問、柳下昭夫同顧問の6名(詳細別掲)。



丹羽秀樹文部科学副大臣



山崎正昭参議院議長



伊吹文明衆議院議長

来賓祝辞

◆伊吹文明衆議院議長

「改正教育基本法では日本の伝統文化を大切にするという心根を謳っております。中学校体育では日本の伝統武道が必修科目になりました。武道に脈々と流れる日本人の生き方、心根を若い人が身につけ、将来の日本、国際社会を担ってほしいという思いでした。日本武道館はそういった武道に流れる精神を守りたいという気持ちで設立された原点を再確認し、新たな百年の歴史に向かって、発展していただくことを心から祈っております」

◆山崎正昭参議院議長

「貴館は我が国の誇る武道を広く奨励し、青少年の健全育成と国家の発展、ならびに世界平和の実現に向けて、中心的な役割を果たしてこられました。皆様の多大なるご尽力に對して、衷心より敬意を表する次第であります。平成24年度より中学校において武道が必修化されました。子供たちが我が国固有の伝統と文化を学ぶことは誠に意義深く、その可能性に期待が寄せられています。引き続き、ご支援ご協力をお願いする次第であります」

◆丹羽秀樹文部科学副大臣

「今日、武道が多くの人々に親しまれ、諸外国でも普及発展していることは、皆様のご熱意とご努力の賜物であり、深く敬意を表します。今後、も武道振興の中心的な役割を果たし、武道を通じた幸福で豊かな社会の創出に貢献なさることを期待いたします。また、2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会が大成をおさめるようオールジャパン体制で準備してまいりますので、引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします」



功労者表彰



乾杯

祝宴では松永会長の音頭に合わせ、白井理事長と来賓5名が鏡開きを行った。続いて、白井理事長の発声で乾杯を行い、懇談に移った。懇談では安倍首相が列席者と気さくに歓談に応じるなど、終始和やかな雰囲気であった。また、前日に演武を行った昭恵夫人も出席し、首相夫妻揃っての祝宴となった。宴も閉じたが、三藤理事・事務局長の閉式の辞で、会はお開きとなった。

功労者一覧



塩川正十郎氏

塩川正十郎（しおかわ・まさじゅうろう）

大正10年生まれ。昭和19年慶應義塾大学経済学部卒業。42年衆議院議員初当選、以後11回当選。内閣官房副長官、運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治大臣・国家公安委員長、財務大臣などを歴任。平成10年日本武道館会長に就任（〜19年）。現在、東洋大学総長。勲一等旭日大綬章受章。

井上裕（いのうえ・ゆたか）

昭和2年生まれ。24年東京歯科医学専門学校卒業。36年医学博士。51年衆議院議員初当選。55年参議院議員当選。以後連続4回当選。58年大蔵政務次官。平成2年文部大臣。参議院予算委員長、弾劾裁判所裁判長、参議



故 井上裕氏

院議長を歴任。平成11年日本武道館常任理事、19年理事長。16年度武道功労章受章。20年逝去、享年82。

岩間英太郎（いわま・えいたろう）

大正10年生まれ。昭和21年文部省入省。49年事務次官。51年国立競技場理事長。57年日本体育大学並びに同短期大学学長。58年全日本学生空手道連盟理事長。60年全日本空手道

連盟特別顧問。

日本武道協議会
武道功労表彰審
議会委員（〜20

故 岩間英太郎氏

年）。22年逝去、享年91。



鳥居泰彦氏

鳥居泰彦（とりい・やすひこ）

昭和11年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。41年同大学院経済学研究科博士課程修了。米国スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校留学を経て、51年慶應義塾大学経済学部教授。平成元年同学部長。5年慶應義塾塾長、理事長兼学長（〜13年）。13年中央教育審議会会長（〜17年）。21年日本武道協議会武道功労表彰審議会委員。現在、慶應義塾学事顧問、全日本学生剣道連盟会長、全日本剣道連盟顧問。

福島林邨（ふくしま・りんそん）

昭和6年生まれ。32年田邊古邨に師事。33年東京学芸大学書道専攻科修了。44年書道同

懇談



福島林邨氏



柳下昭夫氏

文会竹堂賞受賞。48年書写技能検定協会審査員。58年書道一元会理事長。59年和洋女子大学教授。62年全国大学書写書道学会常任理事。63年書道一元会展文部大臣賞受賞。平成

14年和洋女子大学名誉教授。15年国際書道連盟展招聘審査員。日本書写技能検定協会理事。日本武道館では平成4年月刊「書写書道」編集委員、21年同編集顧問。

柳下昭夫（やぎした・あきお）
昭和2年生まれ。27年國學院大學文學部卒業。29年東京学芸大学付属小金井小学校教諭。43年町田市教育委員会指導主事。44年東京都教育庁指導主事・副参事。54年文京区明化小学校長、60年文京区誠之小学校長。全国連合小学校長会会長。61年初等中等教育連合会会長。国語審議会委員。62年日本教育会副会長。日本武道館では平成3年の月刊「書写書道」創刊から編集委員。20年同編集顧問。



日露武道交流年記念事業
ロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会

平成26年10月4日(土) 午後1時～午後4時

主催 公益財団法人 日本武道館・ロシア武道連盟 後援 外務省・在日ロシア連邦大使館・日本武道協議会



サンボの演武

日露武道交流年記念事業 ロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会

武道で日露の友好関係を促進

昨年4月に行われた安倍晋三内閣総理大臣とウラジーミル・プーチン大統領との首脳会談で、2014年を「日露武道交流年」とする合意がなされた。それを記念する事業の実施にあたり、ロシア連邦民族・伝統武道団が10月2日に来日。3日に日本武道館への表敬訪問、記者会見、ウエルカムパーティー、4日に交流演武会（17頁にカラーグラフィック掲載）、5日に日本武道祭での演武（11頁、32頁に掲載）を行った。6日にはロシア大使館でフェアウエルパーティーが開かれ、武道を通じた日露交流促進の目的を果たして帰国した。

■10月3日

◎表敬訪問

ロシア連邦スポーツ省局長のゲレゴリー・カベルスキー団長率いるロシア連邦民族・伝統武道団の代表者12名は、午後2時、日本武道館を訪れた。北口玄関前で出迎えた松永光日本武道館会長、白井日出男同理事長、三藤芳生同理事・事務局長は、ロシアの代表者一人一人と笑顔で握手。その後、一行は会長室に集まった。片岡正徳同振興部普及課長が司



グレゴリー・カベルスキー
ロシア連邦民族・伝統武道団団長



臼井日出男
日本武道館理事長



松永光
日本武道館会長

会となり、はじめに松永会長が歓迎の挨拶を述べた。「日本武道館は、武道の振興普及を目的に活動しています。武道には古



表敬訪問での記念撮影

い歴史があり、武士は武道で心身を鍛えました。日本の中学校では、武道が必修となっています。心身を強くし、礼を大切にし、社会国家のた

めに尽くす人間を育成するためです。ロシアの武道も、目的は同じだと思います。互いにこの武道の振興のために頑張りましょう」

次に、カベルスキー団長が「日露武道交流年に、そして日本武道館創立50年という記念すべき年に来日できて、とても嬉しいです。計画通りに事業が進み、成功するよう期待しています。この演武会が両国だけでなく、全世界との交流に繋がることを願っています」と述べた。

続いて、ロシア武道団各地方武道代表者4名が挨拶。サハ共和国のインノケンチイ・グリゴリエフ氏（マズ・レスリング代表）、タタルスタン共和国のハリル・シャイツジンノフ氏（コレクシユ代表）、モスクワ市のアレクセイ・ヴォロビョフ氏（サンボ代表）、ロストフ州のレオニド・バビッチ氏（コサック武術代表）が、感謝の言葉と各地域における運動文化の活動を紹介した。ヴォロビョフ氏はその中で、今回ロシアの一流アスリートが同行していると述べ、シ

ドニーオリンピック・レスリング金メダリストのダビッド・ムスルベス、世界サンボ選手権優勝のスレン・バラチンスキー、ロンドンオリンピック柔道銀メダリストのアレクサンドル・ミハイリンの3氏を紹介した。

その後、三藤理事・事務局長が歓迎の言葉を述べ、今後の予定を説明。翌日の交流演武会の最後には元総合格闘家のヒョードル・エメリヤネンコロシア連邦スポーツ省特別補佐官がサイン入りプロマイドを観客に手渡しすることを伝え、改めて同席のヒョードル氏に依頼した。続いて、11月5日～12日に日本からモスクワ市へ日本武道代表団の一員として派遣される日本武道館職員3名を紹介。さらに、団長が日ロ友好議員連盟会長の高村正彦武道具連盟会長、副団長が柔道の山下泰裕氏であることを説明した。

記念撮影が終わり、臼井理事長が「皆様方のご来日中、全ての行事が滞りなく成功するよう努力いたしますので、よろしくお願ひします」と閉会の辞を述べた。その後、松永会長と各武道の代表者が互いに記念品を贈呈した。



◎記者会見

午後3時、表敬訪問を行ったロシア武道団の代表者12名と三藤理事・事務局局長、記者9名（うち、ロシアの報道機関2社）が、日本武道館事務棟大会議室に集まった。片岡普及課長の司会で、はじめに翌日の交流演武会で大会委員長を務める三藤理事・事務局局長が交流演武会の主旨と記者会見の進め方を説明した。

次に、カベルスキー団長が各種目の現状説明と関係者への感謝の言葉を述べた。続いて、各地方武道代表者が、それぞれの種目を紹介（各種目の概要は18頁〜20頁に掲載）。その後、ラミル・ガバソフロシア武道連盟常務取締役が挨拶し、連盟の活動を説明。ロシア国内にある75の民族武道連盟が加盟していること、武道団派遣にあたり、事務的な協力をしてきたことなどが伝えられた。

質疑応答の内容は別記のとおり。



最後に三藤理事・事務局局長がお礼の挨拶を述べ、午後4時過ぎに記者会見は終了。その後、ロシア武道団一行は、事務棟に掲げられた日本武道館看板の前で、記念撮影を行った。

◎記者会見の内容（敬称略）

Q（日本人記者） Ⅱ祝賀会に安倍晋三内閣総理大臣が出席すると聞いたが、ロシアのウラジミール・プーチン大統領からのメッセージが読み上げられることはあるか。

A（三藤） Ⅱ特別に予定はしていない。「日本武道館五十周年」が祝賀会の中心になる。

Q（ロシア報道） Ⅱ日露武道交流年にあたり、これまで最も目立っていた事業とその成果を知りたい。また、今後予定している主な事業は何か。

A（カベルスキー） Ⅱ日露武道交流年で行われた事業は、どれも非常に重要だった。既に両国の選手が、互いの国に訪問・交流し、演武会を実施している。この1年間でとても身近な存在になり、理解が深まった。

最も注目されるのは、今回の交流演武会と、11月にモスクワ市で行われる日本武道代表団派遣事業である。これらを実施するため、しっかりと準備をしてきた。多くの観客が集まることを期待する。また、これらの事業は今限りではなく、継続的に行われるようにしたい。

Q（ロシア報道） Ⅱ日本、ロシア双方に質問したい。これで終わりというわけではなく、これからも発展を目指すということだが、既に何かの交渉・打ち合わせが行われているのか。

A（カベルスキー） Ⅱこの1年間で経験したことを活かしていきたい。ここで築かれた新しい関係で、日露のスポーツ交流を発展させたい。互いに新しい武道を習い、関心も高まってきた。これからも発展していくことを期待したい。

A（三藤） Ⅱカベルスキー団長と同じ考えを持っている。我々は、この交流事業を通して深い信頼と実績を積み重ねることが出来ると考えている。交流演武会を行う予定である千葉県勝浦市の国際武道大学と長期的な交流をしたいという、ロシア側からの口頭による申し入れを、既に受けている。より深い交流が出来るような将来計画を考えている。

Q（日本人記者） Ⅱヒョードル氏に質問。今回披露されるロシアの武道で、サンボ以外はほとんど聞いたことがないので教えてほしい。どの競技が日本人に向いていると思うか。



記者会見の様子

A（ヒョードル） Ⅱどの種目も親しみやすい。もしよろしければ、明日の体験交流会に出席してはどうか。短い時間でも技を身に付けられるでしょう。

Q（日本人記者） Ⅱ各種目が日本でどれだけの競技人口があるのか教えてください。

A（カベルスキー） Ⅱ我々の情報では、サンボ以外の競技者は日本にいない。明日の交流会では、全ての種目を体験できるよう配慮したい。上手に出来た参加者には、プレゼントを用意している。

◎ウエルカムパーティー

午後5時30分、日本武道館の主催により、東京・飯田橋のホテルメトロポリタンエンドモントで、日本、ロシアの武道関係者約120名が集まって開かれた。

司会は三藤理事・事務局長が務めた。はじめに松永会長、次にカベルスキー団長が挨拶。続いて武藤顕外務省欧州局参事官、リャボフ・オレグ在日ロシア連邦大使館上級参事官が祝辞を述べた。

その後、乾杯にあたり、臼井理事長とモスクワ市のヴォロビョフ氏が登壇。臼井理事長は「この事業が成功するよう祈念しております。ここでお出迎えいたしました日本人は全て武道家です。どうぞ心行くまで交流を図ってください」、ヴォロビョフ氏は「日露の交流が様々な発展をみせるよう願っております」と挨拶を述べ、両者が高らかに乾杯の発声を行い、懇親会が始まった。交流を深める中、会の途中では以下の関係者が登壇し、挨拶した。

ロシア各地方武道の代表者4名、ヴォロビョフ氏が紹介するロシアのアスリート（表敬訪問で紹介された



臼井理事長とモスクワ市のヴォロビョフ氏が揃って乾杯の発声

林寺拳法連盟東京渉外担当参事、島瀬美佐子全日本なぎなた連盟専務理事、鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事、山田重夫日本古武道協会事務局長、木村恭子天道流薙刀術第十七代宗家、三藤理事・事務局長ほか日本武道館職員16名。

懇談の後、蒔田実国際武道大学学長が挨拶。続いてガバソフロシア武道連盟常務取締役が感謝の言葉を述べた。翌日からの交流事業に期待が膨らむ中、ウエルカムパーティーはお開きとなった。

■10月4日

◎日露武道交流年記念事業ロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会東京大会（主催Ⅱ日本武道館・ロシア武道連盟、後援Ⅱ外務省・在日ロシア連邦大使館・日本武道協議会）

日本武道館前の広場で開かれ、ロシアの伝統武道4種目と天道流薙刀術の演武、観客との体験交流会が行われた。



約1500名の観客及び報道22社が集まる中、午後1時、日本武道館

正面玄関前に設置された会場で、開会式が行われた。三藤理事・事務局長による開会の辞で始まり、松永会長が主催者挨拶を述べた。

「日露武道交流年を記念するこの演武会に多くの方々が集まり、誠に嬉しい限りです。これを機にロシアとの友好関係が深まり、両国が発展することを願います」

次にカベルスキー団長、高村正彦武道議員連盟会長・日本武道館常任理事・日ロ友好議員連盟会長、エヴゲーニー・ウラジミロヴィッチ・アフアナシエフ駐日ロシア連邦特命全権大使、林肇外務省欧州局長が、それぞれ挨拶に立った。以下要旨。

▽カベルスキー団長
「皆様にロシアの武道を披露するた
め、4種目、52名の代表団がやってきました。ロシアでも日本の武道の
人気は高いので、その関係を基に、
交流が盛んになるよう願います」

▽高村武道議員連盟会長

「日本武道館五十周年のよき日に、
ロシア武道団の皆様による演武会が
開催され、誠に嬉しく思います。日

本側からも、橋本久美子元首相夫人、
安倍昭恵現首相夫人が参加されると

いうことで、格式高い演武を期待します。

11月5日からは、私が団長となり、

モスクワ市で現代武道9道、古武道3流派、計75名による演武会を開きます。これらの交流が日露関係の発展に寄与することを祈念します」

▽アフアナシエフロシア連邦大使

「今日は、ロシアの武道家による優れた演武が披露されることを期待します。プーチン大統領は、柔道の『始め』と『引き分け』の言葉を使って、日本との関係を深めようとしています」

す。我々も武道を通じて相互理解を深めていきましょう」

▽林外務省欧州局長

「本日紹介されるロシアの武道は、独自の伝統を持っており、日本であり知られていない種目もあります。皆様の新たな興味の対象になることを願います。また、我が国のフアーストレディーによる武道の実践を拝見できる貴重な機会が得られ、感謝申し上げます。互いの伝統武道の披露を通じて正しい理解が進み、日露両国民の市民レベルでの交流が

盛んになることを望んでいます」

◇

演武会は、開会式と同じく畳を敷いた正面玄関前の会場で行われた。

2部制が採られ、第1部はサンボ、マス・レスリング、天道流薙刀術、コレツシユ、コサツク武術の順で各8分間の演武が披露された。ロシアの演武では、はじめにそれぞれの代表者による解説が加えられた。また、ロシアの武道は全て音楽が流れる中で行われ、観客や道行く人々の注意を引いた。会場の周りには幾重にも人垣ができる盛況ぶり。各演武の終わりに大きな拍手が送られた。

以下、演武の概要。括弧内は演武者数。

▽サンボ（10名）

運動靴を履いた、赤い道着と青い道着の者が、1対1で戦い、打撃技、投げ技、関節技を披露。投げ技から関節技へ、流れるように移行する動きは、格闘術としての実戦性の高さを強調した。最後に、日露両国の国旗が掲げられる演出も施され、交流事業の名に相応しい、ロシア側最初の演武となった。

▽ハプサガイ、マス・レスリング（8名）

特徴的な装飾の民族衣装を身につけた6名が立ち並ぶと、1人の女性が口琴（口元で鳴らす小さな楽器）を使って音楽を奏でる。そこで獣の毛皮を被った男性演武者2名が登場。毛皮を脱ぎ捨てると、筋骨隆々の上体が露になった。両者は組み合ってから投げ技を行った。次に控えていた別の2人が腰を下ろし、両足を着けた姿勢から短い棒を引き合

つた。直接相手に触れることはないものの、力強い戦いを披露した。

▽天道流薙刀術（8名）

はじめに橋本元首相夫人と安倍首相夫人が、しかけ応じを丁寧

に演武した。その後、5名の演武者（細井優子、渡部倫生、大川宗則、佐藤滋美、鶴沼花菜子）による共同演武へ

と続き、各々が5本の技を一糸乱れず行った。最後に木村恭子第十七代宗家と細井氏が、凛とした姿で太刀

合せ5本を披露した。始めと終わりには礼法が行われるなど、日本の武道らしさが伝わる演武となった。

▽コレツシユ（6名）

運動靴を履いた、赤い道着と緑の道着の者が、互いの帯を掴んで四つ

に組み、一方が相手を釣り上げてか



エヴゲーニー・ウラジーミロビッチ・アフアナシエフ
駐日ロシア連邦特命全権大使



高村正彦
武道議員連盟会長



ラミル・ガバソフ
ロシア武道連盟常務取締役



林肇
外務省欧州局長



◆演武会

(上) コサック武術、(左) 天道流薙刀術

ら投げを打つ動作が続いた。仰向けに倒すルールのためか、攻撃側は体を相手にあずける豪快な投げ技を数多く見せ、観客を魅了した。

▽コサック武術(8名)

青い服の上下に、黒い帽子とブーツの装い。手拍子でリズムを作る中、槍・刀・短刀・鞭などを使った技を披露した。武器技が多いものの防具は身に付けず、コサック刀と呼ばれ

る刀の扱いでは、四方八方の敵を一度に斬りつけるかのように、止まることなく振り続けられ、技の見事さもさることながら、集中力の高さを感じさせた。



その後、体験交流会が約30分間開かれた。日本武道館前の広場には4つのテント(北西と南西に各2カ所)が設けられ、ロシアの4種目がそれぞれの場所で体験交流を行った。

参加者は、見様見真似で行う中でも、その種目の特徴や魅力を感じている様子で、各テントは多くの体験希望者に囲まれた。

第2部は、天道流薙刀術を除くロシアの伝統武道4種目の演武、そして、1部と同じく体験交流会が行われた。

また、第2部演武会の後、ヒョードル氏のサイン入りプロマイドが本人から直接配られた。整理券を持ったファン400名が列をなし、またとない機会とあつて、握手や記念撮影を求める姿が多く見られた。

午後4時、閉会式が正面玄関前の会場で行われ、はじめに白井理事長が主催者を代表して「迫力ある素晴

らしい演武で楽しませていただきました。これからも武道による交流を応援してください」と挨拶。次に、ガバソフロシア武道連盟常務取締役が関係者に感謝の言葉を述べた。その後、閉会の辞を三藤理事・事務局長が行い、大きな拍手の中、交流演武会は盛会裏に終了した。

■10月6日

◎日露武道交流年記念事業ロシア連

邦民族・伝統武道団交流演武会勝

浦大会(主催)日本武道館・国際

武道大学・ロシア武道連盟、後援

|| 在日ロシア連邦大使館・日本武

道協議会・勝浦市)

国際武道大学で予定されていたが、台風18号接近の影響で中止となった。

◎フェアウエルパーティー

在日ロシア連邦大使館主催で開かれた。午後6時30分、ロシア大使館にロシア武道団、日本武道館及び国際武道大学役職員、合わせて約90名が集まった。

はじめにアフアナシエフ大使が挨拶。続いてカベルスキー団長が乾杯の発声を行った。歓談の途中、蒔田

実国際武道大学学長が「本来なら今日、本学で皆さんに演武を披露いただく予定でしたが、残念ながら台風の影響により中止となりました。勝浦市民の皆さんも学生も、楽しみにしていたので申し訳なく思いますが、気持ちを切り替えて、新しくスタートしていきたいと思えます」と



時田実国際武道大学学長



フェアウェルパーティーの様子

述べ、勝浦大会の中止を惜しんだ。出席者は、これまでを振り返り、会場には談笑の輪が広がった。ロシアと日本側双方から記念品の贈呈が行われ、互いに事業の成功を祝う中、午後7時30分過ぎ、交流事業の幕が下りた。

◆関係者コメント

●交流演武会演武者

▽安倍昭恵首相夫人



「稽古の時間があまりとれなかったのですが、無事に演武が終わり、ほつと一安心です。」

日露武道交流年にあたり、武道で両国の友好関係を築くことができたいと考えます。日本の武道もロシアの武道も、根底に流れる精神は同じなのではないでしょうか。そういうものを通じて、お互いの理解がさらに深まることを願っています」

▽天道流薙刀術・

木村恭子第十七代宗家

「はじめてご覧になる方も多かったと思います。それを踏まえ、演武は薙刀に幅の広い動きがあることを伝える内容にしました」

▽ベレペリユーク・アンドレ氏(サンボ)

「サンボ歴は15年です。毎日練習しています。膝、肩の怪我は多いですね。また日本に来て、今度は東京以外の観光地に行ってみたいです」

▽インノケンチイ・グリゴリエフ氏

(マス・レスリング代表)

「観覧者や参加者の反応を見て、我々の種目が特徴的であることを再認識しました。日本人の我慢強さは、この種目に合うと思います」

▽ヌルムクハメートフ・アザート氏

(コレッシュユ)

「日本の方々が我々の演武を見て喜んでくれたのが嬉しいです。ロシアでは多くの者が日本の武道を学んでいます。日本人も同じようにロシアの伝統的な武道を好きになり、練習してくれることを期待します」

▽ボポフイヴァン氏(コサック武術)

「初来日です。東京はすごく綺麗な街で、人も親切ですね。現在24歳、

始めて8年です。まだまだベテランの域ではないですし、これからも難しい技を習得していかなければなりません。終わりはありません」

●演武会観覧者

▽大露羅敏さん(ロシア出身力士)



「母国の演武者やメダリストが来てくれて、とても嬉しいです。薙刀は、初めて知りました。剣道と一絡かなと思いました。剣道と一絡かなな文化として守ってほしいです。演武会はロシアに住む友人からの電話で知りました」

▽女性合気道経験者(東京都・68歳)

「演武者の方々は体がよく動いていました。相当稽古を積んでいるのでしょう。感心しました。コサック武術で流れている音楽が哀愁を帯びていて、胸がジーンとしてきました」

●体験交流会参加者

◇コレッシュ体験者

「何もしないまま投げられてしまいました。再び経験することがあ

れば、今度は投げ返したいと思
います。(27歳・男性)

▽大学で合気道部に所属していま

す。今日は仲間と来ました。ロシ
アの武道は、力の流れを意識する
ところが、合気道と似ていると思
いました。他で印象に残ったのは
コサック武術です。剣の動きがめ

ちやくちやくつこよかったです。

(18歳・男性)

◇マス・レスリング体験者

▽競技で勝利し、賞品として3カラ
ットのダイヤをもらいました。自
分より体格のいい人に勝ったので
嬉しいですよ。ヘビー級の中では背
の低いヒョードル選手が、大きな

武道を通じた日露の相互理解推進を

ロシア連邦民族・伝統武道団团长(ロシア連邦スポーツ省局長)
グレゴリー・カベルスキー氏

「今回訪日した代表团は、ロシア
各地域の武道家たちです。演武会
を通じて、ロシアが多民族国家で
あることを示したいとも考えてい
ました。日本の皆様にそのことが
伝わり、さらに、気に入ってもら
えれば嬉しいですよ。」

5日の日本武道祭では、天皇陛
下を拝見できました。また、祝賀
会では安倍総理と言葉を交わすこ
とができました。首相夫人が演武
してくれたおかげです。とてもい

い思い出になりました。

この来日で、我々は日本武道館
が日本にとってどういう意味を持
っているのかを知りました。武道
の中心となる施設であり、政府か
ら重要視されています。今回の
事業は日露武道交流年を記念する
中心的な行事でした。

日本武道館との関係が深まり、
武道を通じた日露の相互理解が、
より一層進むことを願ってやみま
せん」

相手を倒す場面を想像して頑張り
ました。

(29歳・男性)

▽今日、剣道部の顧問の先生からヒ
ョードル選手が来ると教わり、や
つてきました。マス・レスリング
の迫力はすごかったです。体験し
てみましたが、負けちゃいました。

(高校2年・女性)

▽中学校の先輩と2回やって、2回
とも負けてしまいました。引っ張
り合うときの力の入れ方が難しか
ったです。マス・レスリングは演
武を見てやってみたいなと思いま

した。ロシアの演武は迫力があり
ました。時間があればコサック武
術も体験したいです。

(中学1年・男性)

◇コサック武術体験者

▽少し難しかったのですが、優し
く、わかりやすく教えてくれまし
た。空手をやっています。空手と
はだいぶ違いました。またやつて
みたいです。(9歳・男子)

●人気の元総合格闘家

▽ヒョードル・エメリヤネンコ氏
(ロシア連邦スポーツ省特別補佐
官・元総合格闘家)

「ロシアの伝統的な武道を知っても
らいたく来日しました。薙刀の演武
を見てとても気に入りました。首相
夫人自身が健康的なライフスタイル
を実践し、それを伝えようとしてい
るところが素晴らしいです。プーチ
ン大統領は、柔道やサンボをはじめ
、水泳、ジョギングなど全てのス
ポーツに関心を持っています。」

スポーツは、人生に何が起きても
安心して対応できる心を養います。
困難を乗り越え、目標に進んでいく
態度が育まれることを、多くの人に
知ってもらいたいです」



マス・レスリングを体験する中学生

好評発売中

天真正伝香取神道流師範 大竹利典 著

平法

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第二章	修行篇
第三章	技術篇
第四章	軍学兵法篇
第五章	思想篇

「天真正伝香取神道流」

第一章	経津主大神の真伝、
第二章	林先生に師事
第三章	居合術
第四章	流祖生誕六百年記念祭
第五章	忍術
第六章	柔術
第七章	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第八章	遁甲術
第九章	刀剣と密教
第十章	修行者の心得
第十一章	兵法は平法なり
第十二章	平和を願う偉大なる教え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

大権選手道弓女子本

天皇盃

第65回全日本男子弓道選手権大会

平澤敏弘

錬士六段
(長野)

が初の天皇盃



優勝=平澤敏弘錬士六段(長野)

皇后盃 第47回全日本女子弓道選手権大会

東日本大震災復興支援とどけよう スポーツの力
天皇盃 第65回 全日本男子
皇后盃 第47回 全日本女子

蕪木由紀枝 錬士六段 (福島) が
初出場初優勝

優勝＝蕪木由紀枝錬士六段 (福島)

天皇盃第65回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第47回全日本女子弓道選手権大会は、9月19日～23日、東京・代々木の全日本弓道連盟中央道場で行われた。大会には全国の各都道府県から選出された男子108名、女子104名が出場し、争われた。

男子は、平澤敏弘(長野)が10射皆中で初優勝を決めた。女子は、蕪木由紀枝(福島)が10射皆中で初出場・初優勝を果たした。また、最高得点賞は、男子は土佐正明(千葉)が2年連続4回目、女子は北川浩子(大阪)が初の受賞となった。

男女とも予選は1手(2射)2回を採点制で行い、2中以上の得点上位20名が決勝に進出。決勝は1手5回の中制で行われた。同中の場合は、優勝決定を射詰競射で、それ以外は遠近競射で順位を決定する。

■男子 9月21日～23日

21日に開会式と矢渡が行われ、翌22日に予選が行われた。

昨年、最高得点賞の土佐正明(千葉)は2回とも皆中。得点も1526点を記録し、2年連続4回目の最高得点賞を受賞した。

23日に行われた決勝では、4回目(8射)を終えて、皆中が高野直行(新潟)、立石洋(佐賀)、平澤敏弘(長野)、佐々木光彦(秋田)の4名となった。

最終回、高野、立石は9本目を外

したが、10本目を的中させ、共に9中。平澤は9本目、10本目も的中させ、10射皆中を決めると、客席からは大きな拍手がわいた。佐々木は、9本目を的中させたが、10本目を外して9中となった。10射皆中を決めた平澤は、4回目の出場で天皇盃を手にした。

続いて5位を決める遠近競射が、8中の坂本達雄(青森)、遠藤龍一(山形)、武部豊仁(兵庫)、多湖賢治(三重)、森本浩之(愛媛)の5名で行われた。結果、多湖の5位入賞が決まった。

2位から4位は、9中の高野、立石、佐々木の3名による遠近競射で争われた。その結果、佐々木が2位、高野が3位、立石が4位の入賞となった。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位	
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩				
1	坂本 達雄	青森	2	1506	3	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	8	2	
2	遠藤 龍一	山形	4	1487	7	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	8	2	
3	高野 直行	新潟	3	1480	13	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	9	2	3
4	立石 洋	佐賀	3	1478	20	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	9	3	4
5	川名 修徳	宮崎	3	1502	4	○	○	×	×	○	×	×	○	○	×	5			
6	原口 勝利	福岡	3	1482	10	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	7			
7	山崎 正臣	高知	3	1478	19	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	7			
8	小松 正幸	茨城	4	1487	8	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	7			
9	高橋 文彦	福島	2	1482	11	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	5			
10	佐藤 史成	青森	2	1480	15	×	○	○	×	×	×	×	×	○	○	4			
11	武部 豊仁	兵庫	4	1479	16	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	8	2		
12	土佐 正明	千葉	4	1526	1	○	×	○	○	○	×	○	○	×	×	6			
13	小林 憲二	新潟	2	1488	6	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	7			
14	滝上 三郎	埼玉	2	1482	12	○	×	○	○	○	×	×	×	×	○	5			
15	平澤 敏弘	長野	3	1480	14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1	
16	正法地 清	広島	3	1507	2	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	7			
17	多湖 賢治	三重	3	1501	5	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	8	1	5	
18	常本 昭夫	愛知	4	1478	18	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	7			
19	佐々木光彦	秋田	4	1479	17	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	9	1	2	
20	森本 浩之	愛媛	4	1485	9	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	8	2		



第2位=佐々木光彦錬士六段（秋田）



最高得点賞=土佐正明教士八段（千葉）



第4位=立石洋錬士六段（佐賀）



第5位=多湖賢治教士七段（三重）



第3位=高野直行教士七段（新潟）



◎優勝Ⅱ平澤敏弘錬士六段(長野)



「最後の矢は、できるだけ欲を出さずに射を段取りできればと意識しました。でも、今日の射は普段どおりにはいきませんでした。いつもはきちつと引いているつもりなんですけど、決勝になると的中が勝負になるので、そこに欲が出てしまいました。皆中できたのは、運がよかったです」といいます。

32歳の若き選手権者が初めて弓手にしたのは高校1年生のとき。「弓道部を見学したところ、面白そうだと思い、入部しました。今年で

「2位Ⅱ佐々木光彦錬士六段(秋田)」
「やっと終わったという感じです。緊張していないつもりでも、すごい緊張していたんでしょうね。最後の打起しの際、足が滑ってしまったのは疲れのせいだと思います。終わった後も手が震えていました。普通に引いて、普通に離したつもりですが、外してしまいました。詰めが甘いと思います」

◎3位Ⅱ高野直行教士七段(新潟)

「実感がまだ湧かないです。14回目の出場です。ここ何年か予選も通過できずに辛かったです。今回はなんとか予選を通過できて肩の荷が少し降りた気がして、緊張することなく引くことができました。引き続き先生方にご指導いただきながら、もっと上手になれるように稽古に励みます」

「予選と決勝で違う射になってしまいました。今後は、的中が勝負になったときでも自分の射ができるよう、もっと稽古に励んでいきたいと思っています」

「5位Ⅱ多湖賢治教士七段(三重)」
「最初はあがってしまい、つまづいてしまいました。途中で気持ちが切れそうになりましたが、立がすぐいいリズムで引いていたので、稽古どおりの平常心に戻れました。一回は天皇盃をいただきました」

◎4位Ⅱ立石洋錬士六段(佐賀)

「入賞できるとは思っていなかったです。中りあたがついてくるに従って、少し安心したというか、少し力が抜けたのかもしれない。普段はこんなに中りません。とにかく一本一本に集中しました。選手権は2回目の出場で、決勝は初めてです。決勝は緊張しました。今後は、射技の向上と、ここ一番でも変わらずに引けて中てられることを目指します」

「最高得点賞Ⅱ 土佐正明教士八段(千葉)」
「去年は八段に昇段して間もなかったのですが、その勢いが多少ありました。今年も1回目目2位だったので、駄目なのかと考えてしまいました。駄目なかと考えてしまいました。来年も最高得点賞をとりたいたいと思います」

「去年は八段に昇段して間もなかったのですが、その勢いが多少ありました。今年も1回目目2位だったので、駄目なのかとと考えてしまいました。駄目なかと考えてしまいました。来年も最高得点賞をとりたいたいと思います」

■女子 9月19日～21日

19日に参拝、開会式、矢渡が行われ、20日に予選が行われた。

北川浩子（大阪）が最高得点賞を獲得。北川は皆中し、1回目743点、2回目741点、計1484点で受賞した。なお前年度優勝者、藤野小百合（福岡）は1中で予選敗退となった。

21日に行われた決勝では4回目（8射）を終えて、蕪木由紀枝（福島）が皆中、森孝子（長崎）が7中、黒川雅代（宮崎）、岩切久実（宮崎）、鹿野信恵（埼玉）が6中で後を追った。一立目中の蕪木は5回目、9本

目^あを中^あてると、続いて優勝のかわつた勝負矢を見事に詰め、初出場ながら唯一の10射皆中で皇后盃を手にした。最終結果は、以下、黒川、岩切、鹿野が8中、大西由紀子（岡山）、森が7中となった。

続いて5位を決める遠近競射が7中の大西、森の2名で行われた。結果、大西の5位入賞が決まった。

2位から4位は、8中の黒川、岩切、鹿野の3名による遠近競射の結果、黒川が2位、鹿野が3位、岩切が4位に決まった。



優勝した蕪木に石川武夫全日本弓道連盟会長から皇后盃が手渡される

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位	
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩				
1	大西由紀子	岡山	4	1467	11	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	7	1	5
2	大森 淳子	東京	4	1468	10	○	×	○	×	×	×	○	×	○	○	5			
3	蕪木由紀枝	福島	3	1467	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1	
4	黒川 雅代	宮崎	4	1470	9	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	8	1	2	
5	齋藤 往子	東京	2	1462	15	○	×	×	○	×	○	×	○	×	×	4			
6	北川 浩子	大阪	4	1484	1	×	○	○	×	○	×	×	×	○	○	5			
7	出越 雅子	徳島	3	1464	14	×	×	○	○	×	○	×	○	×	×	4			
8	高井 幸子	福島	3	1484	2	×	×	○	○	×	×	○	×	○	○	5			
9	山田 直美	大阪	3	1471	8	○	×	○	○	×	○	×	×	×	○	5			
10	市川 政子	埼玉	4	1474	6	×	○	×	×	×	○	×	○	○	○	5			
11	廣川富美子	新潟	3	1460	16	×	○	○	×	○	×	○	×	×	○	5			
12	有澤 千秋	鳥取	3	1475	5	○	○	○	○	×	×	○	×	○	×	6			
13	岸 恵理子	青森	3	1459	18	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	5			
14	高橋 良子	岩手	3	1460	17	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	2			
15	永吉加代子	福岡	3	1476	3	○	×	○	○	○	○	×	×	○	×	6			
16	伊藤紀美子	三重	2	1459	19	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	5			
17	岩切 久実	宮崎	4	1475	4	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	8	3	4	
18	森 孝子	長崎	3	1458	20	○	○	×	○	○	○	○	○	×	×	7	2		
19	鹿野 信恵	埼玉	3	1465	13	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	8	2	3	
20	佐竹 明美	北海道	3	1473	7	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×	5			



第2位＝黒川雅代錬士六段（宮崎）



最高得点賞＝北川浩子教士七段（大阪）

◎優勝Ⅱ 蕪木由紀枝錬士六段（福島）

「初出場だったので、気負いなく自分の弓が引けたのがよかったと思います。弓道を始めたのは高校1年生の15歳の時。切っ掛けは、胴着袴姿への憧れです。」

高校を卒業して2年間は弓道をしていない時期がありました。就職してから再開しました。弓道を始めて21年になりますが、他の大会で優勝した経験は一度もありません。高校生の頃は楽しく弓が引ければいいと思っていました。再開した後、弓を上手に引いている方の姿を見て、このままではいけないと思いま

した。的中なり射技・体配なりを追い求めていかなければと、それから弓を頑張り始めました。

自宅から道場までは車で1時間かかります。週に3回引ければよいほうです。道場に行くときは悪いところを直すことに集中します。自分が弓を引いているときは、どこが悪かったのかは分からないのですが、主人も一緒に弓を引いているので、アドバイスをもらうこともあります。10年前に選手権に出たいと思い、ようやく出場できた大会なので、来年も頑張りたいです。また、チーム戦の国体にも挑戦してみたいです」

◎最高得点賞Ⅱ

北川浩子教士七段（大阪）

「思いもかけずにいただいた賞なので、嬉しいというよりは驚いております。過去には2位、5位に入賞がありますが、最高得点賞は初めてです。5位に入賞した時は弓を始めて10年も経っていませんでしたので、何もわからず怖いもの知らずでできました。回を重ねるごとに怖いという気持ちが強くなっています。弓道を始めて26年、これからも1回でも多く

全日本選手権に出場できるよう体調を整え故障のないよう弓道に親しんでいきたいと思えます」

◎2位Ⅱ 黒川雅代錬士六段（宮崎）

「自分のことではないような気持ちです。欲が出なかったこともありまして、普段気を付けているところに意識しながら集中もできたので、安定して弓を引くことができました。今後も淡々と弓道が続け、結果が付いてくればよいと思います」



入賞者Ⅱ（右から）北川、岩切、黒川
蕪木、鹿野、大西



第4位＝岩切久実教士六段（宮崎）



第5位＝大西由紀子教士六段（岡山）



第3位＝鹿野信恵教士七段（埼玉）

◎3位Ⅱ鹿野信恵教士七段（埼玉）

「5回目の出場で初めて予選を通過することができました。予選通過が目標でしたので、今日は伸び伸びと引くことができました。先生方に教わったことができればよいなと思う気持ちで、一射一射大事に引きました。今日はそれができました」

◎4位Ⅱ岩切久実教士六段（宮崎）

「びっくりしています。今日は今日、明日は明日という気持ちで臨みました。中りに関しては、今日は中ってる方ですね。この一本をちゃんと正しく引こうということだけが頭にありました。またこれがスタートだと思っています。一生懸命引くだけです」

◎5位Ⅱ大西由紀子教士六段（岡山）

「嬉しいです。今回は比較的調子はよかったです。去年は3位だったのですが、すごく調子が悪く、当日持ち直しました。今年は去年とは逆のパターンでしたので、不安になりながら引きました。ずっと心が浮いている状態だったので、最後はなんとか入れたという思いでした」

好評発売中

国際武道大学教授

松尾牧則

(まつお まきのり) 著

弓道

その歴史と技法

弓矢の発生から日本における弓術の発達、技法の発展の歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上に及ぶ参考文献や、人名索引・事項索引を掲載。弓道のみならず、武道研究者必携の書。



四六判・上製・484頁

目次

- 第一章 弓矢の発生と世界の弓術
弓矢の発生と性能向上の工夫／世界の弓矢と射法／W T A Fにみる世界の弓術
 - 第二章 日本の弓矢と弓術
日本の弓矢の特性——初期の弓矢／日本弓の変遷と特徴ある形状／日本の矢と弓矢関連具／レクリエーション、儀式としての弓術／歩射と騎射／弓矢の誉
 - 第三章 弓術流派と目的に応じた射術
武術の分化と伝達様式の整備／日置弾正と勸進的の流行／日置弾正正次の肖像と技法／弓術諸流派の技法と伝承／大和流弓術とその伝達様式／三十三間堂通し矢の誉——堂射の隆盛と弓具・技法の工夫／「五射六科」五射の実践／「五射六科」六科の教養／弓術稽古の意義と心得
 - 第四章 弓術から弓道へ
弓術の衰退と命脈——明治時代の弓術／「弓術」から「弓道」へ——大正～昭和初期の弓術／昭和初期～戦中の弓道／戦後の弓道復活と連盟組織
 - 第五章 現代の弓道と将来展望
現在の弓道連盟と競技・審査／新素材の弓具／弓具・服装・施設／学校教育における弓道／現代弓道の体系化された技法
①／現代弓道の体系化された技法② 射法八節の要点／弓道——その将来展望と課題
- 参考文献・索引

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

武道の全容をこの一冊に集大成!



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもを育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

第57回全日本実業団剣道大会

東洋水産（本社）が 3年ぶり3度目の優勝



決勝大将戦＝東洋水産・下川（右）が面を決める



開会式

第57回全日本実業団剣道大会（主催Ⅱ全日本実業団剣道連盟）は9月15日、日本武道館で開催された。大会には、全国から過去最高の344チームが出場し、実業団剣道日本一を争って熱戦が繰り広げられた。

決勝は、東洋水産（本社）が九電工（本社）を2-1で降し、3年ぶり3回目の優勝を遂げた。3位には富士ゼロックス（本社）と西日本シティ銀行（本店）が入賞した。また、最優秀選手には東洋水産（本社）の庄司祐也選手が選ばれた。



全日本実業団剣道連盟
会長 浅野直道

開会式では、今年から全日本実業団剣道連盟の会長に就任した浅野直道会長が挨拶に立ち、「344チームという過去最高の参加チームを迎えて盛大に開催される運びとなり、主催者として誠にありがたく深く感謝いたします」と述べた。

試合は、5人制の団体戦で行われ、試合時間は1回戦から準々決勝までは3分間、準決勝・決勝は4分間で、時間内で勝負が決しない場合は引分けとした。また、チームの勝敗は勝者数で決め、勝者数が同数の場合は総本数で、勝者数、総本数が同数の場合は、時間無制限による代表戦（一本勝負）で争われた。

◇準々決勝

準々決勝に進んだのは、六回戦で

前回優勝のNTTを降した富士ゼロックス（本社）、伊田テクノス（伊奈）、九電工（本社）、日本通運（本社）、6月の関東実業団大会2位の東洋水産（本社）、伊田テクノス（本社）、JR東海（本社）、西日本シティ銀行（本店）。

富士ゼロックスと伊田テクノス（伊奈）の対戦は、先鋒戦を引分けした後、次鋒、副将、大将と一本勝を収めた富士ゼロックスが準決勝へ駒を進めた。

九電工と日本通運の対戦は、九電工は先鋒、中堅で2勝。日本通運は次鋒、副将で2勝し、2-2で大将戦を迎えた。大将戦は引分けとなり、本数差（一本）で九電工が辛勝した。

東洋水産と伊田テクノス（本社）の対戦は、東洋水産の先鋒・黒石が二本勝で勝利した後、次鋒戦から副将戦まで引分けした。大将戦は、伊田テクノスの橋本が勝ち、1-1となるも、本数差（一本）で東洋水産が勝ち上がった。

西日本シティ銀行とJR東海の対戦は、西日本シティ銀行は先鋒と中堅が二本勝。JR東海は次鋒と副将

が一本勝。大将戦は引分けとなった。勝者数は2-2だが、本数差（二本）で西日本シティ銀行が準決勝進出を決めた。

◇準決勝

九電工 2-1 富士ゼロックス
甲斐永吉 — 河内省吾
藤井聖司 コ① — 岩川力
芳野哲志 ド① — 岡北真輔
岡本怜 — メ 上原祐二
村岡将和 — 住崎誠洋

先鋒戦は引分け。九電工が次鋒、中堅戦を二本勝で勝利する。富士ゼロックスの副将・上原は、二本勝で大将へつなげたいが、二本目を決められず一本勝で終わる。大将戦は引分けとなり、2-1で九電工が決勝進出を果たした。



準決勝次鋒戦
九電工・藤井（左）が小手を決める

東洋水産 3-2 西日本シティ銀行
黒石 築 — ③メ 甲斐勇太
秀徳信明 メー 小野公次
青木宏介 コー 本川亮介
庄司祐也 メ⑤ — 浜地佳祐
下川慶次郎 ⑤ — メメ 渡辺雄太
先鋒戦は、西日本シティ銀行の甲斐が二本勝。次鋒、中堅戦は東洋水産が一本勝。続く副将戦は、東洋水産・庄司の二本勝で、大将戦を待たずに東洋水産が決勝進出を決めた。



準決勝先鋒戦Ⅱ西日本シティ・甲斐（左）
対東洋水産・黒石



大会風景



決勝副将戦＝東洋水産・庄司（左）対九電工・岡本

◇決勝

東洋水産 2-1 九電工

黒石 築 | メ 甲斐勇太

秀徳信明 | | 藤井聖司

青木宏介 | | 芳野哲志

庄司祐也 | メ | 岡本 怜

下川慶次郎 コ× | | 村岡将和

先鋒、東洋水産・黒石と九電工・

甲斐の対戦。甲斐は試合開始早々、
鏑迫り合いから引き面で一本を奪
う。その後、両者は攻めあうも決め
手のないまま時間となり、甲斐が一
本勝を収める。次鋒、中堅戦は引分

けとなる。

副将戦、試合開始直後に東洋水

産・庄司の飛び込み面が決まる。九
電工・岡本も攻めるが一本を決めき
れず時間となり、庄司は一本勝で試
合を五分に戻す。

勝負を決める大将戦。開始早々、



決勝大将戦＝東洋水産・下川（左）が出小手を決める

東洋水産・下川は、小手、面と打つ

た面を決めた。後がない九電工・村
岡は、主審の試合開始の発声と同時
に面に跳ぶ。これに反応した下川
は、出小手を決めた。東洋水産が逆
転勝利を収め、3年ぶり3回目の優
勝を果たした。



優勝＝東洋水産(本社)



2位＝九電工(本社)



3位＝富士ゼロックス(本社)



3位＝西日本シティ銀行(本店)

◎優勝Ⅱ東洋水産・本郷貴久監督
 「優勝を目指していましたので、そのミッションをクリアした選手たちはよくやってくれました。本社に道場があり、恵まれた環境ではありますが、仕事あつての剣道ですから、なかなか稽古に集まれないときもあります。大会前には、5分でも10分でもよいので稽古しようと呼ぶ声をかけ、短い時間でも集中して稽古に取り組むことができました」

◎最優秀選手賞Ⅱ
 東洋水産・庄司祐也選手
 「今年の4月に転勤となり、栃木の宇都宮で仕事をしています。本社のみんなと稽古をする機会が少なくなつてしまいましたが、チームの皆でつないで掴みとつた優勝です。すごく印象に残る大会となりました。この優勝に驕ることなく、来年の関東、全日本大会もありますので、常に上を目指して頑張ります」

【大会結果】

- ▽優勝Ⅱ東洋水産(本社)
- ▽2位Ⅱ九電工(本社)
- ▽3位Ⅱ富士ゼロックス(本社)

西日本シティ銀行(本店)

▽敢闘賞Ⅱ伊田テクノス(伊奈)、日本通運(本社)、伊田テクノス(本社)、J R 東海(本社)



日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



写真提供：『剣道時代』

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

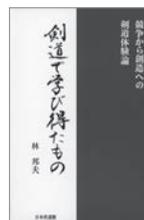


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



81kg級決勝＝渡邊（左）対糸井
渡邊が払巻込で攻める

男子 33回
女子 30回

全日本学生柔道
体重別選手権大会

81kg級
渡邊 勇人、長澤 憲大が連覇
90kg級
女子は梅木 真美
78kg級がV2



90kg級決勝＝長澤（左）対五味
長澤が釣込腰に入る

全日本学生柔道体重別選手権大会
(男子33回・女子30回)が9月27日・
28日に日本武道館で開催され、男女
各7階級で学生日本一を争う熱戦が
繰り広げられた。

■男子

▽60kg級

決勝は、東京予選の決勝と同じく、河野亮哉(日本体育)と林浩平(国士舘)の顔合わせとなった。試合は両者互角の攻防が続く。終了直前に河野が林の内股に合わせて技を返し、有効。これが決め手となって、河野の優勢勝となった。

▽66kg級

決勝には、佐々木貴大(日本体育)と大木恭介(帝京科学)が勝ち進んだ。佐々木は序盤、技が出ず、指導をとられる。大木は積極的に攻め、足払いや大内刈での惜しい場面もあったが、勝負を決めたのは佐々木だった。佐々木は連続で技を仕掛けて大木を崩すと、釣込腰で投げて一本勝ちした。

▽73kg級



73kg級決勝＝三浦(下)の豪快な内股



100kg級決勝＝制野(右)が石内を攻める

決勝は三浦健寛(国士舘)対宮山翔多(山梨学院)となった。長身の三浦は、奥襟を掴んで宮山を攻め立てていき、中盤、内股で有効を奪う。三浦はその後も攻撃を緩めず、一方の宮山は全く技を出すことができないまま終了。三浦の優勢勝が決まった。

▽81kg級

決勝は、前回優勝の渡邊勇人(東海)と糸井滉平(國學院)の対戦となった。開始1分、渡邊は大内刈を掛けにきた糸井の体勢を崩すと、腕

を抱え込んで払巻込。そのまま捕った腕を腕緘で極め、渡邊が一本勝で連覇を果たした。

▽90kg級

決勝に勝ち上がったのは、前回優勝者・長澤憲大(東海)と五味江貴(日本体育)。試合は長澤のペースで展開、前に出ることができない五味には指導が2つ重なる。3分過ぎ、

長澤が釣込腰を掛け、崩れた五味を押し込んで技有を奪う。その後、長澤は指導を一つとられるが、優勢勝で連覇を決めた。

▽100kg級

決勝は制野孝二郎(日本)対石内裕貴(天理)となった。激しい技の応酬が繰り広げられ、時間内には決着がつかず、延長へもつれこむ。試合が動いたのは延長3分半。制野は石内の内股を透かし、倒れた石内を上四方固で抑え込んで一本。約9分間の熱戦を制した。

▽100kg超級

決勝には上田轄麻(明治)と佐藤和哉(日本)が勝ち進んだ。両者と

も技が出ず、それぞれに指導。佐藤はさらに指導を2回とられる。上田にも終盤2つ目の指導がつくが、そのまま試合は終了。指導1つの差が決め手となって上田が優勢勝した。

■女子

▽48kg級

決勝では、神山結理（立命館）と松尾美沙（福岡）が対戦。試合が開



52kg級決勝=小松（上）が小外刈で有効

始されるとすぐに、神山が巴投で有効を獲得する。その後は互角の争いが続くが、ポイントに変化のないまま試合が終了し、神山が優勢勝した。

▽52kg級

決勝は、小松柔（環太平洋）と渡邊真珠美（淑徳）の対戦となった。

一進一退の攻防が続く。中盤、小松が小外刈で有効を奪う。小松はそこから、うつ伏せの渡邊を返して縦四方固めで抑え込むが、すぐに解ける。渡邊は慎重になり指導。残り1分、小松が、巴投を仕掛けた渡邊を抑けに持ち込もうとする。逃げようとする渡邊を巧みに返して横四方固で抑込み、小松が一本勝を決めた。

▽57kg級

決勝は、趙睦熙（埼玉）对小野彰子（龍谷）。小野は大外刈などで積極的に攻めていくが、片襟で指導をとられる。力強い技を次々と繰り出す小野だったが、再び片襟で指導。

両者とも技によるポイントを得ることができないまま試合終了。指導2による趙の優勢勝となった。



63kg級決勝=坂井（右）が大内刈で一本

▽63kg級

決勝では、坂井彩花（金沢学院）と前回準優勝の伊勢崎詩乃（帝京科学）が対戦した。技が出ないため指導をとられた坂井が、直後に大内刈

に飛ぶ込む。逃れようとする伊勢崎だったが、坂井はしっかりと掴んだ襟と袖で相手を制して一本とした。

▽70kg級

決勝に進んだのは、東京予選1位の佐俣優依（帝京）と瀨砂香澄（環太平洋）。激しく攻める佐俣、積極

性に欠ける瀨砂には指導がつく。終盤、佐俣は前に出てきた瀨砂を返して有効を奪う。そのままポイントに変化なく試合は終了し、佐俣が優勢勝した。

▽78kg級

決勝は、前回優勝の梅木真美（環太平洋）対赤嶺麻佑（帝京）の対戦となった。梅木に奥襟を掴まれた赤嶺は頭を下げられ、攻めることができず、指導を重ねる。試合時間半を過ぎ、赤嶺が大内刈に出ると、梅

木はそれに合わせて小外刈を決めて一本。2年生にして2回目の優勝を果たした。

▽78kg超級

決勝は、前回優勝の井上愛美と前回3位の井坂希望の山梨学院同士の対戦に。井上は技が出ず指導をとられる。その後、井上も払腰などで攻撃を見せたが、両者とも組まずに指導。終盤、井上には3つ目の指導が付き、井坂の優勢勝が決まった。



78kg級で連覇した梅木 (奥)

《優勝者コメント》

決勝戦終了直後に涙を見せた2人の選手にその思いを聞いた。

◎男子100kg級優勝 制野孝二郎 (日本)

高校のときまで全国大会での優勝がなかったけれど、金野潤先生 (日大監督) に拾っていただいて、3年目にしてようやく優勝することができました。決勝では、気持ちがち切れそうになったときに、金野先生とチームのみんなの声が聞こえて、ここで諦めちゃいけないと思いました。その言葉を思い出して、思わず涙が

出ました。練習では、たとえ少しでも他の人より多く努力を重ねるようになりました。それが自信になって優勝につながったと思います。

◎女子52kg級優勝 小松柔 (環太平洋)

中学2年のときに全日本大会で優勝してから、ずっと勝っていませんでした。8年ぶりに優勝できて本当に嬉しかったです。私は柔道スタイルが地味だと言われるけれど、それを貫き通せたから勝つたのではないかなと思います。小外刈で崩して寝技で攻めるのが得意です。

【大会結果】

■男子

▽60kg級 ①河野亮哉 (日本体育)

②林浩平 (国士舘) ③田中崇晃 (筑波)、青木大 (日本体育)

▽66kg級 ①佐々木貴大 (日本体育)

②大木恭介 (帝京科学) ③岩館典毅 (札幌)、西山祐貴 (日本体育)

▽73kg級 ①三浦健寛 (国士舘) ②

宮山翔多 (山梨学院) ③齊藤大树 (帝京科学)、佐藤慎太郎 (桐蔭横浜)

▽81kg級 ①渡邊勇人 (東海) ②糸

井混平 (國學院) ③宇都宮光樹 (筑波)、中園史寛 (東海)

▽90kg級 ①長澤憲大 (東海) ②五味江貴 (日本体育) ③澤建志郎 (福岡)、小林悠輔 (筑波)

▽100kg級 ①制野孝二郎 (日本) ②

石内裕貴 (天理) ③浅沼拓海 (国士舘)、飯田健伍 (山梨学院)

▽100kg超級 ①上田轄麻 (明治) ②

佐藤和哉 (日本) ③五十嵐唯大 (東海)、藤井靖剛 (山梨学院)

■女子

▽48kg級 ①神山結理 (立命館) ②

松尾美沙 (福岡) ③饒平名知子 (筑波)、腰文音 (日本体育)

▽52kg級 ①小松柔 (環太平洋) ②

渡邊真珠美 (淑徳) ③鈴木真佑 (仙台)、塚田紗矢 (山梨学院)

▽57kg級 ①趙睦熙 (埼玉) ②小野

彰子 (龍谷) ③工藤千佳 (仙台)、

出口クリスタ (山梨学院)

▽63kg級 ①坂井彩花 (金沢学院)

②伊勢崎詩乃 (帝京科学) ③佐村慎涉 (淑徳)、名村友薫 (金沢学院)

▽70kg級 ①佐俣優依 (帝京) ②濱

砂香澄 (環太平洋) ③小川莉歩 (国士舘)、長内香月 (山梨学院)

▽78kg級 ①梅木真美 (環太平洋)

②赤嶺麻佑 (帝京) ③日高美沙希 (大阪体育)、太田紗智璃 (国士舘)

▽78kg超級 ①井坂希望 (山梨学院)

②井上愛美 (山梨学院) ③藤原恵美 (筑波)、山本沙羅 (大阪体育)



待望の 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 単行本化 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

第1章 普及への意思

柔道史の原点

欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門

新大陸へ派遣第2号

異種格闘技に生きた前田光世

英国柔道の基礎―武道会

武道会を訪れた嘉納と高弟会田

小泉が語る英国柔道史

仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か

駐仏日本国大使 杉村陽太郎

続々と仏蘭西へ

海外より見た柔道―独逸通信

東洋への進出

異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜

嘉納逝き連盟成らず

欧州から国際柔道連盟の結成

講道館長、国際柔連会長に就任

世界柔道選手権大会開催

東京五輪招致成功

東京五輪と正式種目柔道

パリの仇

体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進

変わり行く柔道

不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は 素晴らしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



運び足を実践する参加者
(堀内助講師による実践研究にて)

第1回全国相撲指導者研修会

充実した相撲授業を目指し 全国指導者研修会を初開催

- 特別講師＝安井和男（日本相撲連盟常務理事）
- 講師＝桑森真介（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会座長）、上村裕一（長野県木曾町立福島中学校教諭）、入倉裕司（山梨県忍野村立忍野中学校教諭）、廣瀬理奈（山梨県富士吉田市立下吉田中学校教諭）、満留久摩（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会委員）
- 助講師＝安藤均（日本相撲連盟中学校相撲授業指導法研究委員会委員）、堀内弥（同）、松浦麻乃（同）、村田安啓（同）

研修会日程

9月19日
開講式
講義「趣旨説明・研修の概要」
講義「手引きの概要と相撲の歴史」
実践研究「グループ別ワークショップ・実技研修」
9月20日
講義「中学校体育相撲指導の実践法」
実践研究「未経験中学生を対象とした指導」
実践例報告「長野県福島中学校の事例」
実践例報告「山梨県忍野中学校の事例」
自由研修
9月21日
審判法研修
閉講式

「第一回となるこの研修会にご参加いただき、誠に感謝申し上げます。この3日間で身につけたことを、地元での指導に活かしてください」

次に、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が、中学校武道授業のための研修であること、国庫補助事業であること、中学校での相撲種目採用の実態などを説明し、「この研修会でしっかりと学び、相撲の楽しさ、

▼開講式

■初日（19日）

主催者を代表して特別講師の大野孝弘日本相撲連盟専務理事が挨拶を述べた。

第1回全国相撲指導者研修会（主催Ⅱ日本武道館・日本相撲連盟、後援Ⅱ文部科学省）は、9月19日～21日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、55名（うち、男性51名・女性4名、保健体育科教員11名）が参加して開かれた。

研修会は、全国で相撲を指導する中学校、高等学校の教員や、社会体育指導者を対象に、学校教育における相撲指導の充実を図る目的で開催された。



講師、参加者及び事務局

素晴らしさを子供たちに伝えていた
「だきたい」と参加者を激励した。

▽講義

安井和男特別講師が研修会の趣旨
説明と概要を、次に、桑森真介講師
が『中学校体育 相撲指導の手引き
(改訂版)』の概要を説明。その後、
相撲の歴史をまとめたDVDを視聴
した。

安井特別講師は、中学校武道必修
化にあたり、連盟で指導法の研究チ
ームを設け、手引きや映像資料の作
成にあたったことを紹介。既成概念
にとらわれず、土俵やまわしがなく
ても学ぶことが出来る内容にしたと
説明し、この研修を通じて授業で何
が必要なのかを知り、指導の充実を
図ってほしいと述べた。

桑森講師は、手引き作成の基本方
針を3つ挙げた。①楽しさや喜びを
味わう、②どこでも、だれでも安全
に授業が出来る、③学習指導要領に
準拠する、である。この方針に基づ
き、相撲の特性と指導上の考え方、
進め方をまとめ、安全面での配慮が
必要などところは写真を用いてわか
りやすく構成していると説明した。ま
た、手引き全体を概観するなか、技

術指導では主要な技能を絞り込み、
難しい箇所は解説に留めることな
ど、具体的な方針を紹介した。

▽実践研究

満留久摩講師が担当となり、グル
ープ別ワークシヨップを開いた。参
加者は6つの班に分けられ、それぞ
れ自己紹介を行い、交流を図った。
そして、各地域の相撲に関する情報
交換、普及の可能性を話し合った。
減少傾向にある相撲部員について、
女子への指導、用具調達の問題など、
話題は多岐にわたり、時間いっぱい
意見交換を行った。

次に、堀内弥助講師が中心となり、
手引きに掲載されている具体的指導
法を実践・紹介した。参加者はペア
になり、手押し相撲、陣取り相撲を
行った。また、はじめは立った状態
から、慣れてきたら蹲踞から行う段
階的指導法を紹介。試合の前後に礼
をすることや、蹲踞姿勢から後ろに
転がる際、後頭部を打たないよう注
意するなど、関連した指導が効果的
であるとした。

さらに、蹲踞、塵手水、四股、運
び足などの基本動作を映像で確認・
実践し、丁寧に要点を解説した。

■2日目(20日)

▽講義

中学校保健体育での相撲授業実践
をテーマに、満留講師と安藤均助講
師が、それぞれ講義を行った。満留
講師は初日の研修で紹介された手引
きの内容を確認しつつ、授業の組み
立て方がわかる指導計画の例が掲載
されていることを伝えた。その後、
学習内容をまとめたカードを活用し
ている中学校の授業実践例を、映像
で紹介した。

安藤助講師は、スポーツ基本法の
基本理念にある安全確保の推進を強
調し、生徒の体調を把握することや、
事故発生時の対応をあらかじめ考え
ておくこと、施設・用具の安全確認、
禁止技をしっかりと把握することを訴
えた。また、相撲の決まり手の約4
割が、押し出しか寄り切りによると
いうデータを示し、押しと寄りの指
導で安全に相撲の楽しさを味わわせ
ることが出来るとした。

これを踏まえ、堀内助講師が押し
と寄りに焦点を絞り、映像資料を活
用しつつそれらの指導法を紹介し
た。参加者は、相撲パンツや柔道帯、
簡易まわしを身につけ、生徒の立場

なつて学んだ。最後に堀内助講師が、勝負にこだわるアスリートのな考え方ではなく、生徒自身が効果的な押しや寄りの方法に気づくようにしてほしいと述べ、まとめとした。

▽実践研究

初日に分けられた6つの班で、それぞれ指導案を作成。中学1年生、6時間扱いの2時間目、まわしと土俵がないという条件を想定。作成された指導案は、生徒に興味・関心を失わせないよう、簡易試合など遊びの要素を取り入れつつ、基本動作を身につける内容が多くみられた。

そして、これらの指導案を検証するため、勝浦市勝浦中学校の女子生徒9名（1年生6名、2年生3名、美術部または家庭科部に所属、相撲経験なし）の協力を得て、模擬授業を行った。多くがこれまでの研修で学んだ指導法を採用し、基本動作の要点を伝えた。簡易試合では、生徒から笑顔がこぼれるなど、概ね指導計画どおりの授業が展開された。

模擬授業後の研究協議では、「よい雰囲気での授業が出来た」「簡易試合の中で、自然に礼法を取り入れられた」「中腰の姿勢をつくるために

◎参加者の感想

【教員】

▽地域独自の指導にこだわるところも多いので、このような研修会で先生方と交流しながら、多くの指導法を学ぶことの大切さを知った。
（栃木県・男性）

▽はじめて知る簡易ゲームがあった。実際の授業で使ってみたく、けんけん相撲などはやりやすく、子供も楽しめそう。
（長野県・男性）

▽どこまで専門的に教えられるのか、不安はある。柔道部の顧問をしているが、専門用語を多用

しないなど、他種目の初心者指導にも役立つ内容だった。

▽授業の指導では、楽しませる部分をもっと勉強しなければと感じた。相撲経験者だが、指導内容について、新たに気づかされる場面もあった。中学校を卒業しても、相撲に興味を持ち続けてもらえるような指導をしたい。映像資料には女子相撲や女子指導の様子が映っているとよい。
（奈良県・男性）

▽参加者の方々から、女性の指導について多くの質問を受けた。

【県連所属者、地元指導者】

（沖縄県・男性）

上村講師は、内容紹介にスライドを使用。学習カードを活用しつつ、中腰の構えを崩す「寄り」を身につけ、その楽しさを味わわせることを目指した授業内容を説明した。

続いて、入倉・廣瀬講師は、「自分の重心を保ちながら相手の重心を崩すこと」に注目し、押しと中腰の指導を重視していた。中腰はペアで特徴を確認し合う、踏ん張る

柔道の経験があるが、女子柔道と同じ道を歩んでいくのではないかと思った。
（東京都・女性）

▽女子相撲を紹介する動画もあるとよい。
（静岡県・男性）

▽継続的に行い、若い先生方に参加してもらええる講習会にしたほうがよい。
（愛知県・男性）

▽実践例で紹介された動画がほしい。
（鳥取県・男性）

【模擬授業を受けた中学1年女子】

▽面白く、わかりやすかった。教室で男子が楽しんでいる相撲とは違い、ちゃんとしたルールがあることを知った。授業に採用されたら、喜んでやると思う。

力を出すために足の指で地面を掴むようにするなどのポイントが伝えられた。また、中腰が必要な、下腹部に力を入れること、受け身、バランスの崩しを学ぶことが出来る簡易試合も紹介・実践した。

■3日目（21日）

▽審判法研修
堀内助講師が担当した。はじめに、



中学生の協力を得て行われた実践研究



審判法の研修

アマチュア相撲での審判の服装を説明。映像で試合の流れを確認した後、審判は選手との接触を避けるため、慣れるまで立ち合い後は土俵の外で審判を行うとよいなどの注意点を伝えた。また、礼法を実践し、審判規定遵守よりも安全な授業のルール作りを目指すことを強調した。

審判法の実践にあたり、審判は競技と同じく6名とし、きわどい判定には異議申し立てをすること、試合時間があることなどの説明がなされ

た。参加者は選手役も行うため、経験者はまわしを、未経験者は簡易まわしや相撲パンツ、柔道の帯を着用。勝敗の行方に盛り上がるなかでの研修となった。

▽閉講式

はじめに、吉川英夫日本武道館振興部長から参加者代表に修了証が手渡された。その後、桑森講師が講評を述べた。

「本研修会では、現場の先生方や競技に関わってこられた方々が協力しあって、中学校での授業について考えていただきました。教育面でも魅力的な種目であるということが地元で伝わり、少しでも多くの中学校で採用されるよう願っています」

最後に、特別講師である安井和男日本相撲連盟常務理事が「相撲は日本人の考えた競技であり、先人の様々な知恵が詰まっています。連盟としては、これからもこの相撲のよさを多くの方々に伝えていく努力をしていきます。皆様方には研修会の第一期生として、相撲の拡大に寄与していただけることを、ご期待申し上げます」と挨拶を述べ、3日間にあつた研修会を締めくくった。

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

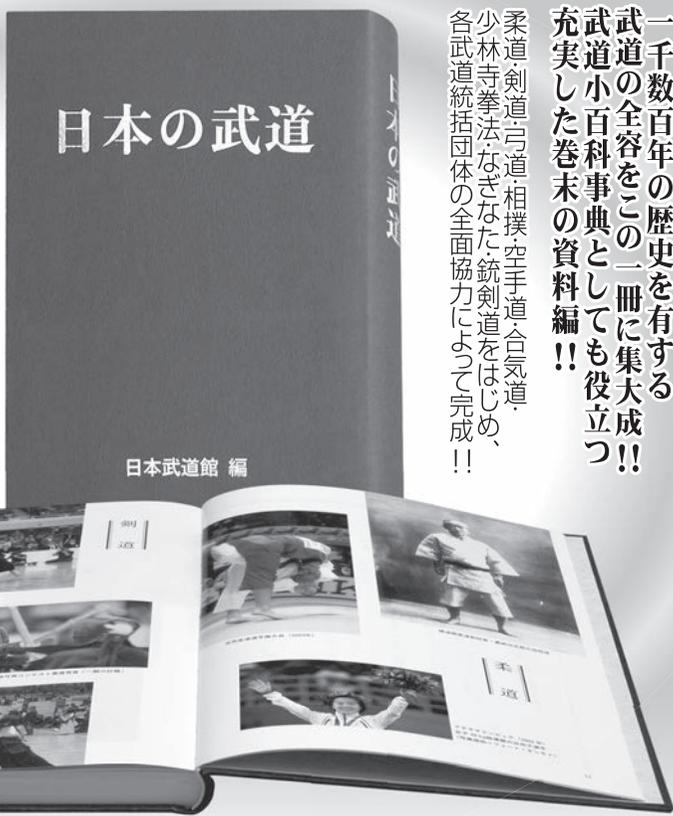
柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

好評発売中!

日本武道館編



(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすずめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（武道憲章）（武道憲章英訳文）（ごも武道憲章）
カラー口絵（日本武道館 9 武道 10 日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：
村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第4節 武道の魅力…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第5節 学校武道の歴史…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第6節 武道の教育力…………… (財)日本武道館

第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子ども心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る! 安井和男 先輩部長が育てる侍力士